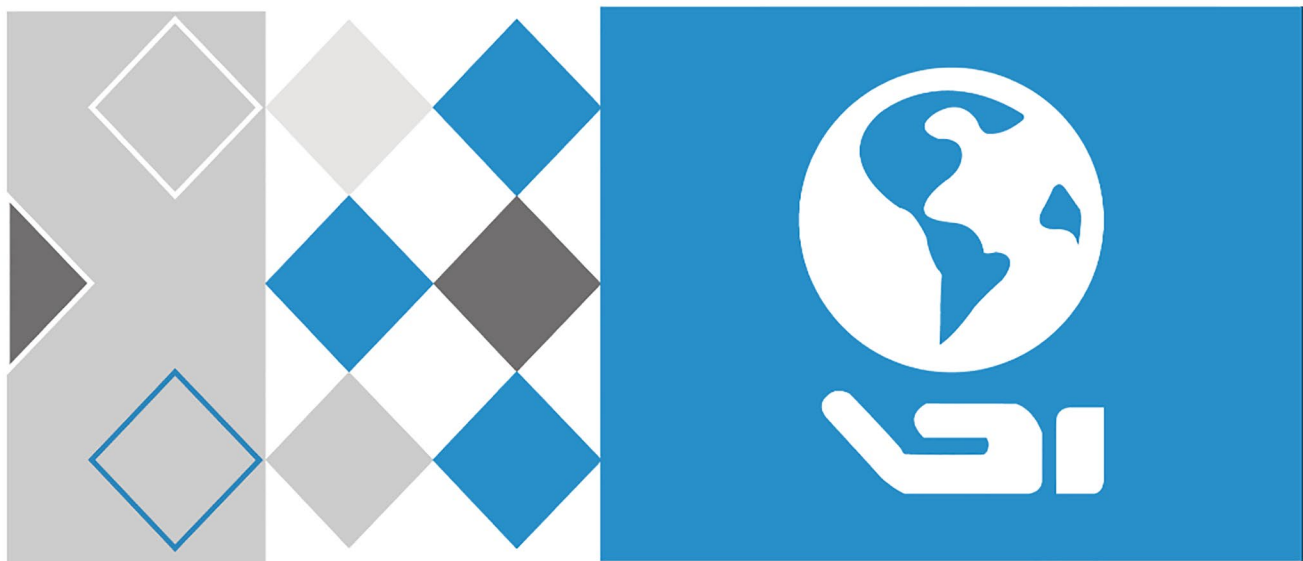


HiLook



ネットワークビデオレコーダー

ユーザーマニュアル

免責事項

この文書について

- 本ドキュメントには、製品の使用および管理に関する指示が含まれています。以下に示す図、チャート、画像およびその他すべての情報は、説明および解説のみを目的としています。
- 本ドキュメントに記載されている情報は、ファームウェアの更新その他の理由により、予告なく変更される場合があります。最新版はHikvisionウェブサイト（<https://www.hikvision.com>）でご確認ください。別途合意がない限り、杭州海康威視デジタル技術有限公司またはその関連会社（以下「Hikvision」といいます）は、明示的または黙示的を問わず、一切の保証を行いません。
- 本製品をサポートする訓練を受けた専門家の指導と支援のもとで、本ドキュメントをご利用ください。

本製品について

- 本製品は、購入された国または地域でのみアフターサービスサポートを受けることができます。
- お選びいただいた製品が映像製品の場合は、以下のQRコードをスキャンして「映像製品の使用に関する取り組み」を入手し、よくお読みください。



知的財産権に関する認識

- Hikvision は、本書に記載された製品に組み込まれた技術に関連する著作権および/または特許を所有しており、これには第三者から取得したライセンスが含まれる場合があります。
- 本文書のテキスト、画像、グラフィックなど、その一部はすべて Hikvision に帰属します。書面による許可なく、本文書のいかなる部分も、その全部または一部を、いかなる手段によっても抜粋、複製、翻訳、または改変することはできません。
- HiLook およびその他の Hikvision の商標およびロゴは、さまざまな法域における Hikvision の所有物です。
- 記載されているその他の商標およびロゴは、それぞれの所有者に帰属します。
- **HDMI**™ HDMI および HDMI High-Definition Multimedia Interface、ならびに HDMI ロゴは、米国およびその他の国における HDMI Licensing Administrator, Inc. の商標または登録商標です。

法的免責事項

- 適用される法律で許容される最大限の範囲において、本書および記載されている製品（そのハードウェア、ソフトウェア、ファームウェアを含む）は、「現状有姿のまま」かつ「すべての欠陥およびエラーを含む」状態で提供されます。HIKVISION は、商品性、満足のいく品質、特定目的への適合性を含むがこれらに限定されない、明示的または黙示的（ ）な保証を行いません。本製品のご利用はお客様ご自身の責任において行ってください。いかなる場合においても、HIKVISIONは、特別損害、結果的損害、付随的損害、間接損害（事業利益の損失、事業中断、データ損失、システムの破損、または文書の損失を含むがこれらに限定されない損害について、契約違反、不法行為（過失を含む）、製造物責任その他のいかなる法的根拠に基づくものであっても、本製品の使用に関連して生じた場合、たとえHIKVISIONがそのような損害または損失の可能性について事前に通知を受けていた場合であっても、一切の責任を負いません。
- お客様は、インターネットの本質に内在するセキュリティリスクを認識し、サイバー攻撃、ハッカー攻撃、ウイルス感染、その他のインターネットセキュリティリスクに起因する異常動作、プライバシー漏洩その他の損害について一切の責任を負いません。ただし、必要に応じてタイムリーな技術サポートを提供します。
- お客様は、適用される全ての法令を遵守して本製品を使用することに同意し、お客様の使用が適用法令に準拠していることを確認する責任はお客様のみにあります。特に、本製品の使用が第三者の権利（パブリシティ権、知的財産権、データ保護およびその他のプライバシー権を含むがこれらに限定されない）を侵害しない方法で行う責任を負います。お客様は、大量破壊兵器の開発または製造、化学兵器または生物兵器の開発または製造、核爆発物または安全でない核燃料サイクルに関連する文脈における活動、または人権侵害を支援する活動。
- 本文書と適用される法律との間に矛盾が生じた場合、後者が優先する。

©杭州海康威視デジタル技術有限公司。無断複写・転載を禁じます。

規制情報

FCC情報

コンプライアンスの責任者が明示的に承認していない変更または改造は、ユーザーによる本機器の操作権限を無効にする可能性があることにご留意ください。

FCC適合性：本機器は、FCC規則第15部の規定に基づく試験を実施し、その制限に適合していることが確認されています。これらの制限は、住宅環境における有害な干渉から合理的な保護を提供するために設計されています。本機器は、無線周波エネルギーを発生、使用、および放射する可能性があり、指示に従って設置および使用されない場合、無線通信に有害な干渉を引き起こす可能性があります。ただし、特定の設置環境において干渉が発生しない保証はありません。本機器がラジオまたはテレビ受信に有害な干渉を引き起こす場合（機器の電源をオフ/オンすることで確認可能）、ユーザーは以下の対策のいずれかまたは複数を試み、干渉の解消に努めることが推奨されます：

- 受信アンテナの方向や設置場所を変更する。
- 機器と受信機の間隔を広げる。
- 受信機が接続されている回路とは異なる回路のコンセントに接続する。
- 販売店または経験豊富なラジオ / テレビ技術者に相談する。

FCC条件

本装置はFCC規則第15部に準拠しています。以下の2条件に従って動作します：

- この装置は有害な干渉を引き起こしてはならない。
- 本装置は、受信したあらゆる妨害（望ましくない動作を引き起こす可能性のある妨害を含む）を受け入れなければなりません。

EU適合宣言



本製品および付属品（該当する場合）は「CE」マークを表示しており、EMC指令2014/30/EU、LVD指令2014/35/EU、RoHS指令2011/65/EUに規定される欧州調和規格に準拠しています。



2012/19/EU（WEEE指令）：このマークが付いた製品は、欧州連合において一般廃棄物として廃棄できません。適切なリサイクルのため、同等の新品機器購入時に販売店へ返却するか、指定回収拠点で処分してください。詳細は<http://www.recyclethis.info>を参照。



2006/66/EC（電池指令）：本製品には電池が含まれており、欧州連合（EU）域内では一般廃棄物として廃棄できません。電池の詳細情報は製品文書をご参照ください。電池にはこの記号が刻印されており、カドミウム（Cd）、鉛（Pb）、水銀（Hg）を示す文字が

含まれる場合があります。適切なリサイクルのため、電池は販売店または指定回収場所に返却してください。詳細は以下を参照：
<http://www.recyclethis.info>。

適用モデル

本マニュアルは下記のモデルに適用されます。

表 1-1 適用モデル

シリーズ	モデル
NVR-100MH-C	NVR-104MH-C
	NVR-108MH-C
	NVR-116MH-C
NVR-100MH-C/P	NVR-104MH-C/4P
	NVR-108MH-C/8P
NVR-200MH-C	NVR-208MH-C
	NVR-216MH-C
NVR-200MH-C/P	NVR-208MH-C/8P
	NVR-216MH-C/16P
NVR-100MH-K	NVR-104MH-K
	NVR-108MH-K
	NVR-116MH-K
NVR-100MH-K/P	NVR-104MH-K/4P
	NVR-108MH-K/8P
NVR-200MH-K	NVR-208MH-K
	NVR-216MH-K
	NVR-232MH-K
NVR-200MH-K/P	NVR-208MH-K/8P
	NVR-216MH-K/16P
	NVR-232MH-K/16P
NVR-104H-D	NVR-104H-D/4P
NVR-108H-D	NVR-108H-D/8P

記号の定義

本書で使用される記号は、以下の通り定義されます。

記号	説明
 危険	回避しなければ死亡または重傷を負う危険な状況があることを示す。
 注意	回避しなければ、機器の損傷、データの損失、性能の低下、または予期しない結果をもたらす可能性のある潜在的な危険な状況を示します。
 注記	本文の重要な点を強調または補足する追加情報を提供します。

安全上の指示

- すべてのパスワードおよびその他のセキュリティ設定の適切な構成は、設置者および / またはエンドユーザーの責任です。
- 製品の使用にあたっては、国および地域の電気安全規制を厳守してください。
- プラグを電源コンセントにしっかりと差し込んでください。1つの電源アダプターに複数の機器を接続しないでください。付属品や周辺機器の接続・取り外しを行う前に、機器の電源を切ってください。
- 感電の危険！保守作業前には全ての電源を切断してください。
- 本機器は接地された電源コンセントに接続してください。
- コンセントは装置の近くに設置し、容易にアクセスできる状態にしておくこと。
- ⚡ の表示がある装置は、危険な通電状態を示すため、端子に接続される外部配線は、指示を受けた者による設置が必要です。
- 装置を不安定な場所に設置しないでください。装置が落下し、重大な人身事故や死亡事故を引き起こす恐れがあります。
- 入力電圧は、IEC62368に準拠したSELV（安全超低電圧）およびLPS（限定電源）を満たす必要があります。
- 高接触電流注意！電源接続前に必ずアース接続を行ってください。
- 本装置から煙、異臭、異音が発生した場合は、直ちに電源を切り、電源ケーブルを抜いて、サービスセンターにご連絡ください。
- 本装置はUPSと併用し、可能な限りメーカー推奨のHDDを使用してください。
- 本機器は、子供がいる可能性のある場所での使用には適していません。
- 注意：誤ったタイプの電池と交換すると爆発の危険があります。
- 電池を飲み込まないでください。化学火傷の危険性があります！
- 本製品にはコイン型電池が含まれています。コイン型電池を飲み込むと、わずか 2 時間で重度の内部火傷を引き起こし、死に至る場合があります。
- 誤った種類の電池と交換すると、安全装置が機能しなくなる可能性があります（例：一部のリチウム電池タイプの場合）。
- 電池を火中や高温のオーブンに廃棄したり、機械的に押しつぶしたり切断したりしないでください。爆発の原因となる可能性があります。
- 電池を極端に高温の環境に放置しないでください。爆発や可燃性液体・ガスの漏洩を引き起こす恐れがあります。
- 電池を極端に低い気圧にさらさないでください。爆発や可燃性液体・ガスの漏出を引き起こす可能性があります。
- 使用済み電池は指示に従って廃棄してください。
- ファンブレードやモーターに身体の一部が接触しないようにしてください。メンテナンス中は電源を切断してください。
- 身体の一部をモーターから遠ざけてください。整備中は電源を切ってください。
- 純正モデルと同じ電源、または同じ電圧および電流のLPS電源のみを使用してください。

予防および注意事項

本装置の接続・操作前に、以下の注意事項をご確認ください：

- 本装置は屋内専用です。換気の良い、ほこりのない、液体のない環境に設置してください。
- レコーダーはラックや棚に確実に固定してください。落下による強い衝撃や振動は、レコーダー内部の精密電子機器を損傷する恐れがあります。
- 本装置は水滴や飛沫にさらさないでください。また、花瓶などの液体入りの容器を装置の上に置かないでください。
- 点灯したろうそくなどの裸火を本機の上に置かないでください。
- 換気口を新聞紙、テーブルクロス、カーテンなどの物品で覆い、通風を妨げてはいけません。ベッド、ソファ、ラグ、その他の類似した表面に装置を置くことで、換気口を絶対に塞がないでください。
- 特定のモデルについては、AC 電源に接続するための端子の正しい配線を確認してください。
- 特定のモデルでは、必要に応じてIT配電システムへの接続用に設計・改造されています。
-  はバッテリーホルダー本体を示し、はバッテリーホルダー内部の電池セルの配置を示します。
- + は、直流を使用または発生する装置のプラス端子を示し、- は、直流を使用または発生する装置のマイナス端子を示します。
- 本装置の電源がオフになっている場合や長期間使用していない場合、コイン型/ボタン型電池の電力が枯渇する可能性があります。
- コイン型/ボタン型電池の電力が枯渇すると、システム時刻が不正確になります。電池の交換については、アフターサービスにご連絡ください。
- 十分な換気のため、機器周囲に最低200mm（7.87インチ）のスペースを確保してください。
- 特定のモデルでは、AC 電源に接続するための端子の正しい配線を確認してください。
- 鋭利なエッジや角には触れないでください。
- °°デバイスの動作温度が 45 °C（113 °F）を超えた場合、または S.M.A.R.T. における HDD 温度が規定値を超えた場合は、デバイスを涼しい環境で動作させるか、HDD を交換して S.M.A.R.T. における HDD 温度を規定値以下にしてください。
- 山頂、鉄塔、森林などの特殊な条件下では、装置の吸気口にサージプロテクタを設置してください。
- 電源を切った後も電気が残っている可能性があるため、むき出しの部品（インレットの金属接点など）には触れないでください。また、少なくとも 5 分間は待ってください。
- 本装置のUSBポートは、マウス、キーボード、USBフラッシュドライブ、Wi-Fi Dongle 接続専用です。接続機器の電流は0.1A以下であること。
- 本装置のシリアルポートはデバッグ専用です。

- 本装置の電源出力ポートが限定電源に準拠していない場合、このポートから給電される接続機器には防火エンクロージャーを装備してください。
- 本装置のパッケージに電源アダプタが同梱されている場合は、同梱のアダプタのみを使用してください。
-  または  のステッカーが貼付されている装置については、以下の注意事項に注意してください。注意： 部品は高温です。触れないでください。部品を取り扱う際に指を火傷する恐れがあります。電源を切ってから 30 分待ってから部品を取り扱ってください。
 - 壁や天井に設置する必要がある場合は、本マニュアルの指示に従って設置してください。
 - 怪我を防ぐため、本装置は設置説明書に従い設置面に確実に固定してください。
- 高温環境（40 °C～55 °C（40° C (104° F) ～ 55° C (131° F)）では、一部の電源アダプタの電力が低下する場合があります。
- 配線、設置、または分解を行う前に、必ず電源が切断されていることを確認してください。
- 本装置を自身で配線する必要がある場合は、装置に表示されている電氣的パラメータに基づき、対応する電線を選択して電源を供給してください。標準的なワイヤーストリッパーを使用して、対応する位置で電線の被覆を剥がしてください。深刻な結果を避けるため、被覆を剥がした電線の長さは適切であり、導体が露出しないようにしてください。
- 装置から煙、異臭、異音が発生した場合は、直ちに電源を切り、電源ケーブルを抜いてサービスセンターにご連絡ください。

目次

第1章 起動	1
1.1 デバイスの起動	1
1.2 ログイン	2
1.2.1 ロック解除パターンによるログイン	2
1.2.2 パスワードによるログイン	3
第2章 ライブビュー	5
2.1 GUI 概要	5
2.2 PTZ制御	7
2.2.1 PTZ パラメータの設定	7
2.2.2 PTZ コントロールパネルの概要	8
2.2.3 プリセットのカスタマイズ	8
2.2.4 パトロールのカスタマイズ	8
2.2.5 パターンのカスタマイズ	9
第3章 再生	11
3.1 GUI 概要	11
3.2 通常再生	11
3.3 イベント再生	13
3.4 スライス再生	14
3.5 クリップのバックアップ	14
第4章 ファイル検索	16
第5章 設定（簡易モード）	17
5.1 システム設定	17
5.1.1 全般	17
5.1.2 ユーザー	18
5.1.3 例外	19
5.2 ネットワーク設定	20

5.2.1	概要	20
5.2.2	HiLookVision	21
5.2.3	電子メール	22
5.3	カメラ管理	24
5.3.1	ネットワークカメラ	24
5.3.2	OSD設定	28
5.3.3	イベント	28
5.4	録画管理	31
5.4.1	ストレージデバイス	31
5.4.2	録画スケジュールの設定	33
5.4.3	録画パラメータの設定	35
第6章	設定（エキスパートモード）	37
6.1	システム設定	37
6.1.1	基本	37
6.1.2	ライブビュー	38
6.1.3	ユーザー	40
6.2	ネットワーク設定	41
6.2.1	TCP/IP	41
6.2.2	DDNS	42
6.2.3	NAT	43
6.2.4	ポート（詳細設定）	44
6.2.5	サーバーへのログアップロード	45
6.2.6	HiLookVision	46
6.2.7	電子メール	46
6.3	カメラ管理	46
6.3.1	ネットワークカメラ	46
6.3.2	表示設定	55
6.3.3	プライバシーマスク	56
6.4	デバイス管理	57

6.4.1	スイッチ	57
6.5	イベント設定	59
6.5.1	通常イベント	59
6.5.2	境界保護	64
6.5.3	非動画イベント	68
6.5.4	その他のイベント	69
6.5.5	警戒スケジュール設定	69
6.5.6	アラーム連動アクションの設定	70
6.6	録画管理	72
6.6.1	録画スケジュールの設定	72
6.6.2	録画パラメータの設定	75
6.6.3	ストレージデバイス	76
6.6.4	保存モードの設定	78
6.6.5	詳細設定	78
第7章	メンテナンス	80
7.1	初期状態への復元	80
7.2	検索ログ	80
7.3	システムサービス	80
7.4	ブザースイッチ	81
7.5	デバイスメンテナンス	82
7.5.1	スケジュール再起動	82
7.5.2	カメラのアップグレード	82
7.5.3	デバイスステータス	82
7.6	アップグレード	83
7.6.1	ローカルアップグレード	83
7.6.2	オンラインアップグレード	83
第8章	アラーム	84
8.1	イベントヒントの設定	84
8.2	アラームセンターでのアラーム表示	84

第9章 Web操作	85
9.1 はじめに	85
9.2 ログイン	85
9.3 ライブビュー	86
9.4 再生	87
9.5 設定	87
9.6 ログ	88
第10章 付録.....	89
10.1 用語集	89

第1章 起動

1.1 デバイスのアクティベーション

初回アクセス時には、管理者パスワードを設定してビデオレコーダーをアクティベートする必要があります。アクティベート前は一切の操作が許可されません。Webブラウザ、SADP、またはクライアントソフトウェア経由でもビデオレコーダーをアクティベートできます。

開始前に

デバイスの電源を入れてください。

手順

1. 言語を選択します。
2. 「適用」をクリックします。
3. 必要に応じて解像度を1920*1080/60Hz（1080P）に設定してください。

注記

解像度はデフォルトで1280*720/60Hz (720P)です。「このプロンプトを再度表示しない」にチェックを入れると、再起動後もプロンプトは表示されません。HDMIケーブルでデバイスをモニターに接続すると、解像度は自動的に1920*1080/60Hz (1080P)に調整されます。一部のモニターモデルは解像度適応に対応していません。

4. 「パスワード」と「パスワード確認」に同じパスワードを入力します。

警告

強力なパスワードの使用を推奨-製品のセキュリティ強化のため、以下のルールに従いご自身で強力なパスワードを作成することを強く推奨します：

8～16文字。パスワードに以下の文字を含めないでください：ユーザー名、123、admin、4桁以上の連続した昇順/降順の数字、または4文字以上の連続した同一文字。以下の種類の文字を少なくとも2種類含むこと：数字、大文字、小文字、特殊文字。危険なパスワードは使用不可。

特に高セキュリティシステムでは、パスワードを定期的のリセットすることを推奨します。月次または週次でのリセットにより、製品の保護が強化されます。

5. オプション：パスワードヒントの設定。

 注意

パスワードを忘れた場合、ヒントが思い出せる手助けとなります。パスワードヒントの設定をお勧めします。

6. オプション：ロック解除パターンを設定します。

- 1) ロック解除パターンを有効にする。
 - 2) マウスを使用して画面上の9つの点の間でパターンを描画します。パターンが完成したらマウスを離します。
-

 注意

パターンは最低4つの点で構成する必要があります。各点は1回のみ接続可能です。

- 3) 同じパターンを再度描画して確認します。2つのパターンが一致した場合、設定は正常に完了します。

7. 「有効化」をクリックしてください。

次の手順

ウィザードに従って基本パラメータを設定します。

- 基本システムパラメータについて。詳細は「[一般](#)」を参照してください。
- 一般的なネットワークパラメータについては、「[一般](#)」を参照してください。
- ストレージデバイスの設定について。詳細は[ストレージデバイス](#)を参照してください。
- ネットワークカメラの追加について。詳細は「[ネットワークカメラ](#)」を参照してください。
- プラットフォーム設定について。詳細は[HiLookVision](#)を参照してください。
- パスワードを忘れた場合、パスワードリセットメール、HiLookVision、セキュリティ質問の3つの方法でリセットできます。少なくとも1つのパスワードリセット方法を設定する必要があります。詳細は「[パスワードリセットメールの設定](#)」および「[HiLookVision](#)」を参照してください。

1.2 ログイン

1.2.1 ロック解除パターンによるログイン

手順

1. ライブビュー上でマウスを右クリックします。

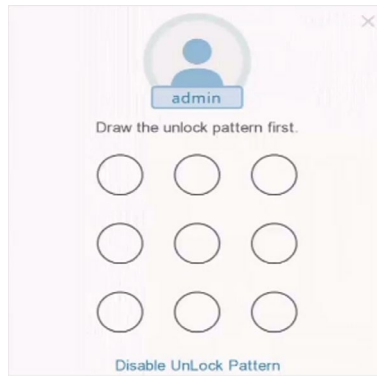


図1-1 ロック解除パターンの描画

2. 事前定義されたパターンを描画し、メニュー操作に入ります。

 注記

- パターンを忘れた場合は、「パターンを忘れた」または「ユーザーを切り替え」をクリックし、パスワードでログインしてください。
 - 間違ったパターンを5回以上描画した場合、システムは自動的に通常のログインモードに切り替わります。
-

1.2.2 パスワードによるログイン

ビデオレコーダーがログアウトしている場合、メニューやその他の機能进行操作する前にログインする必要があります。

手順

1. ユーザー名を選択します。

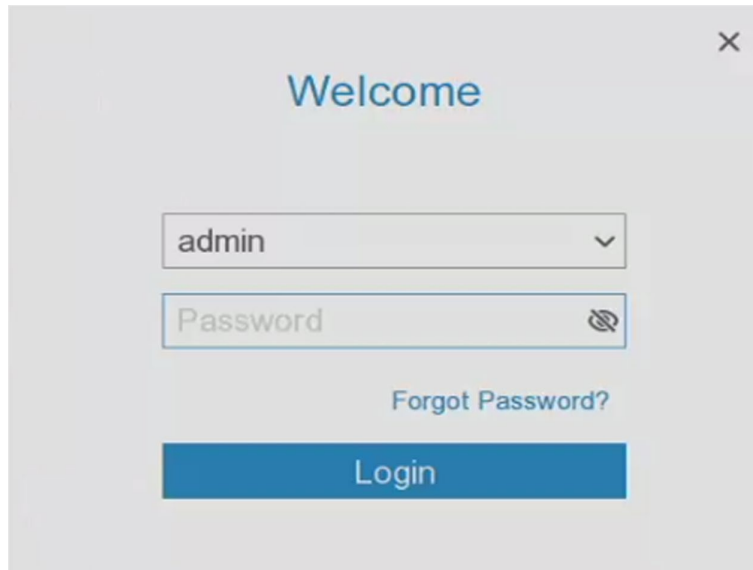


図1-2 ログイン画面

2. パスワードを入力します。
3. 「ログイン」をクリックします。

 注意

- 管理者パスワードを忘れた場合、「パスワードを忘れた場合」をクリックしてパスワードをリセットできます。
 - パスワードを7回間違えて入力すると、現在のユーザーアカウントは60秒間ロックされます。
-

第2章 ライブビュー

2.1 GUI 概要

- 左上の「**Target Detection**」をクリックし、「」または「」を選択すると、指定したライブターゲット検出結果が表示されます。結果の詳細は「**View More**」をクリックしてください。

注記

- **ターゲット検出**は特定のモデルでのみ利用可能です。
 - **ターゲット検出**は、HDDがインストールされている場合に有効です。
 -  **動作検知**、**ライン越え検知**、**侵入検知**、および**顔検知**に有効です。
-
-  をクリックすると自動切り替えの開始/停止が可能です。画面が自動的に次の画面に切り替わります。
 -  をクリックすると全画面モードに入ります。
 - カメラをダブルクリックするとシングルスクリーンモードで表示されます。再度ダブルクリックするとシングルスクリーンモードを終了します。
 - カメラのライブビュー画面を変更するには、その画面から目的の画面へドラッグします。
 - 上下にスクロールすると前の画面/次の画面に切り替わります。
 - カメラにカーソルを合わせるとショートカットメニューが表示されます。

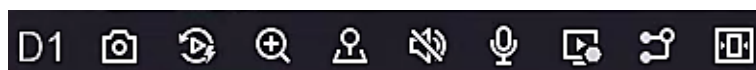


図 2-1 ショートカットメニュー

表 2-1 ショートカットメニューの説明

ボタン	説明
	クリックしてキャプチャします。
	直近5分間に録画された動画の再生を開始します。
	デジタルズーム。ズームインの倍率を調整し、目的の領域を表示できます。
	クリックすると PTZ 制御モードに入ります。
	ライブビューの音声のオン/オフを切り替えます。
	クリックすると、NVR とネットワークカメラ間の双方向オーディオ

ボタン	説明
	イオが開始されます。  注意 ネットワークカメラが双方向オーディオに対応していることを確認してください。
	ビデオストリームを切り替えます。
	ルールフレームとターゲットフレームを表示します。
	画面サイズに応じて画像表示効果を調整する。

- ライブビュー画面では、画面右上に各カメラのアイコンが表示され、カメラの録画状態やアラーム状態を示します。

表 2-2 ライブビューアイコンの説明

アイコン	説明
	アラーム発生中（通常イベントおよびスマートイベント）。
	録画中。

- ショートカットメニューを表示するには、マウスを右クリックします。

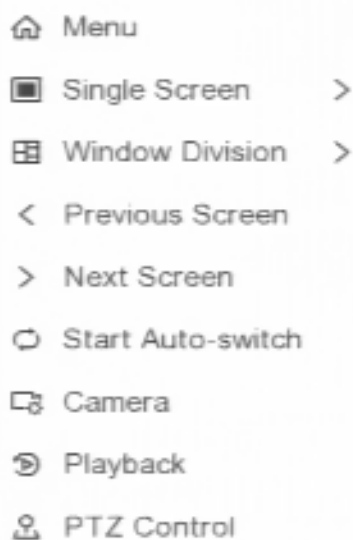


図 2-2 右クリックショートカットメニュー

2.2 PTZ制御

2.2.1 PTZ パラメータの設定

PTZカメラを制御する前に、PTZパラメータを設定する必要があります。

手順

1. ライブビューでカメラをプレビューし、ショートカットメニューの「」をクリックします。

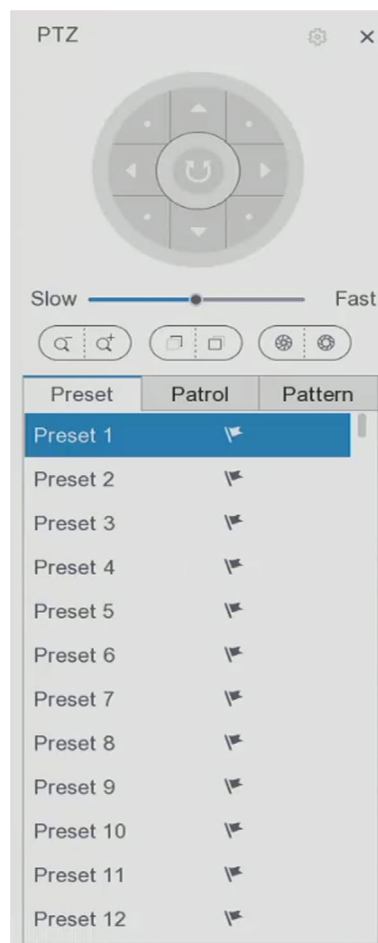


図2-3 PTZ設定

2.  をクリックします。
3. PTZカメラのパラメータを設定します。

注記

すべてのパラメータはPTZカメラと同一である必要があります。

4. [OK]をクリックします。

2.2.2 PTZ コントロールパネルの概要

表 2-3 PTZ パネルの説明

アイコン	説明
	方向ボタン、および自動循環ボタン。
	PTZ 動作速度。
	ズーム -/+。
	フォーカス -/+。
	アイリス -/+。

2.2.3 プリセットのカスタマイズ

イベント発生時に PTZ カメラが向くプリセット位置を設定します。

手順

1. ライブビューでカメラをプレビューし、ショートカットメニューの「」をクリックします。
2. プリセットリストから目的のプリセットを選択します。
3. 方向キーを使用してカメラを必要な位置に移動させます。ズームとフォーカスを任意に調整します。
4. 「」をクリックします。

次の操作

プリセットリストでプリセットをダブルクリックすると呼び出せます。

2.2.4 パトロールのカスタマイズ

パトロールとは、指定された順序で一連のプリセットで構成される経路を指します。複数

のプリセットを監視するための動的なライブ画像を提供します。

手順

1. ライブビューでカメラをプレビューし、 ショートカットメニューをクリックします。
2. 「パトロール」をクリックします。
3. 対象パトロールの「」をクリックします。
4. 「」をクリックします。
5. キーポイントのパラメータを設定します。具体的には、キーポイント番号、各キーポイントでの滞留時間、パトロール速度などです。キーポイントはプリセットに対応します。プリセット番号は、パトロール中にPTZカメラが順に追従する順序を決定します。**滞留時間**とは、対応するキーポイントに留まる時間間隔を指します。**速度**は、PTZカメラが1つのキーポイントから次のキーポイントへ移動する速度を定義します。

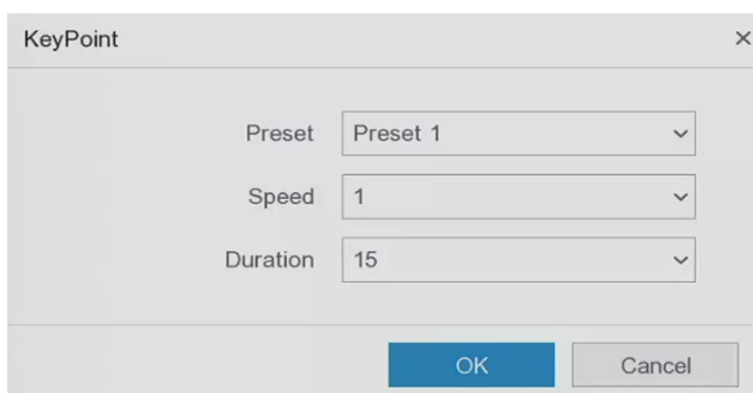


図2-4 パトロール設定

6. [OK]をクリックします。
7. [保存]をクリックします。

次の操作

パトロールを選択し、 をクリックして呼び出します。PTZカメラは事前定義されたパトロール経路に沿って移動します。

2.2.5 パターンのカスタマイズ

パターンは移動経路と特定位置での滞留時間を記録します。パターンを呼び出すと、PTZカメラは記録された経路に沿って移動します。

手順

1. ライブビューでカメラをプレビューし、ショートカットメニューの「」をクリックします。
2. [パターン]をクリックします。
3. パターンを選択します。
4. 「」をクリックします。

5. 方向ボタンでカメラを必要な位置に移動させます。ズームとフォーカスを任意に調整します。
6. [] をクリックします。カメラの移動経路がパターンとして記録されます。

次の操作

パターンを選択し、 をクリックして呼び出します。PTZカメラは事前定義されたパターンに従って移動します。

第3章 再生

3.1 GUI 概要

再生画面へ移動します。

表 3-1 再生インターフェースの説明

ボタン	操作	ボタン	操作
	30秒巻き戻し。		30秒間 早送り
	全画面表示。		再生開始。
	速度を落とす。		スピードアップ。
	速度。		

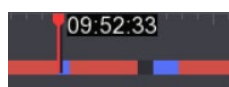


図3-1 タイムライン

- タイムライン上でカーソルを配置し、タイムラインをドラッグして特定の時間位置に移動します。
- 青色のバーでマークされた期間に動画が含まれます。赤色のバーは、その期間内の動画がイベント動画であることを示します。
- タイムラインを上下にスクロールすると、タイムラインを縮小/拡大表示できます。

3.2 通常再生

通常の動画を再生します。

手順

1. 再生画面に移動します。
2. カメラリストからカメラを選択します。
3. カレンダーから再生したい日付を選択します。

注記

カレンダー日付の隅にある青い三角形は、利用可能な動画があることを示します。例：
 は動画が利用可能であることを意味します。  は動画がないことを意味します。

4. オプション：再生ウィンドウにカーソルを合わせるとコントロールバーが表示されます。



図3-2 コントロールバー

表3-2 ボタン説明

ボタン	説明	ボタ ン	説明
	ウィンドウ分割、 チャンネルをグル ープ化して再生。		再生画像を拡大/ 縮小します。
	オーディオのオン /オフを切り替え ます。		タグを追加。
	ビデオをロック/ ロック解除。		動画をクリップす る。
	人を写した動画を 表示		車両を含む動画を 表示する。
通常の動画をスキップ	/ をクリッ クすると、再生中 に他の動画は非表 示になり、人物ま たは車両が含ま れる動画のみが表 示・再生されま す。		ルールフレームと ターゲットフレー ムを表示する。
	画面サイズに応じ て画像表示効果を 調整します。	AcuSe ek()	/ をクリッ クした場合、 をクリックして検 知エリアを設定 し、このエリア内 の人物/車両情報 を素早く検索でき ます。
	マルチウィンドウ 分割再生。		

図3-3 AcuSeek

3.3 イベント再生

イベント再生モードを選択すると、システムは動き検知、ライン越え検知、または侵入検知情報を含む動画を分析し、マークします。

開始前に

- カメラでデュアルVCAが有効になっていることを確認してください。カメラのウェブブラウザインターフェースで設定可能です：設定→ビデオ/オーディオ→ストリーム上の表示情報。
- →ビデオレコーダーで「VCAデータ保存」が有効になっていることを確認してください。設定（Configuration）→録画（Record）→詳細設定（→Advanced）で有効にできます。

手順

1. 再生画面に移動します。
2. 「イベント」をクリックします。
3. カメラを選択します。
4. 再生ウィンドウ上でカーソルを移動し、コントロールバーを表示させます。

表 3-3 ボタン説明

ボタン	説明	ボタン	説明
	タグを追加します。		再生画像を拡大/縮小します。
	ビデオをクリップ。		ビデオをロック/ロック解除。
	検出エリアを設定する。		オーディオのオン/オフを切り替える。

5. 「
6. 「
7. 「

通常の動画をスキップ

有効にすると、スマート情報を持たない動画は再生されません。

通常動画

通常動画の再生速度を設定します。このオプションは「通常動画を再生しない」がオフの場合にのみ有効です。

スマート/カスタム動画の再生速度

スマート情報を持つ動画の再生速度を設定します。このオプションは「通常動画を再生しない」が有効な場合にのみ有効です。

3.4 スライス再生

動画をスライスに分割して再生します。

手順

1. 再生→ スライス再生 に移動します。
2. カメラリストからカメラを選択します。
3. カレンダーから再生したい日付を選択します。

注記

カレンダー日付の隅にある青い三角形は、利用可能な動画があることを示します。例えば、 は動画が利用可能であることを意味します。 は動画がないことを意味します。

取得した動画は1時間単位に分割されて再生されます。

4. オプション：1時間単位のスライスを選択し、さらに1分単位に分割して再生します。

3.5 クリップのバックアップ

再生中に動画をクリップできます。クリップした動画はバックアップデバイス（USBフラッシュドライブなど）にエクスポートできます。

開始前に

ビデオレコーダーにバックアップデバイスを接続してください。

手順

1. 再生を開始します。詳細は「[通常再生](#)」を参照してください。
2.  をクリックします。
3. 開始時間と終了時間を設定します。タイムバー上のカーソルを調整して期間を設定することもできます。

4. **[保存]**をクリックします。
5. バックアップ先デバイスとフォルダを選択します。
6. **[保存]**をクリックしてクリップをバックアップデバイスにエクスポートします。

第4章 ファイル検索

手順

1. 「**検索**」に移動します。
2. 検索タイプ（動画、画像、イベントなど）を選択します。
3. 検索条件を設定します。
4. オプション：クイックバックアップをクリックすると、動画をデバイスに素早くエクスポートできます。

注記

クイックバックアップは動画およびイベント検索で利用可能です。

5. **[検索]**をクリックします。
 - 「」をクリックすると動画を再生します。
 - 「」をクリックしてファイルをロックします。ロックされたファイルは上書きされません。
 - ファイルを選択し、「**エクスポート**」をクリックしてバックアップデバイスにファイルをエクスポートします。

第5章 設定（簡易モード）

イージーモードには基本設定が含まれます。設定に移動し、イージーモードをクリックしてください。

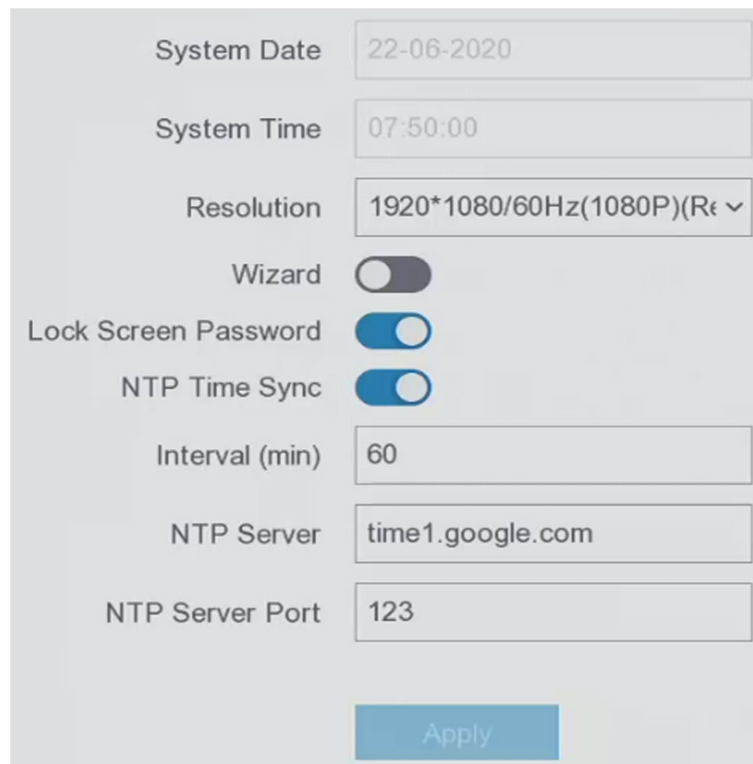
5.1 システム設定

5.1.1 一般

出力解像度やシステム時刻などを設定できます。

手順

1. [設定] → [→] → [システム] → [→] → [全般] に移動します。



System Date	22-06-2020
System Time	07:50:00
Resolution	1920*1080/60Hz(1080P)(Rt ▼)
Wizard	☐
Lock Screen Password	☒
NTP Time Sync	☒
Interval (min)	60
NTP Server	time1.google.com
NTP Server Port	123
Apply	

図5-1 一般設定

2. 必要に応じてパラメータを設定します。

ウィザード

デバイス起動後にウィザードが表示されます。

ロック画面パスワード

画面がロックされている場合、パスワードを入力する必要があります。

NTP時刻同期

ネットワーク時間プロトコル（NTP）は、時刻同期のためのネットワークプロトコルです。デバイスはNTP（ネットワーク時間プロトコル）サーバーに接続して時刻を同期できます。

間隔（分）

NTPサーバーとの2回の時刻同期の間隔時間。

NTPサーバー

NTPサーバーのIPアドレス。

3. [適用]をクリックします。

5.1.2 ユーザー

ユーザーの追加

デフォルトアカウント：管理者。管理者ユーザー名は**admin**です。管理者はユーザーの追加、削除、編集権限を有します。ゲストユーザーはライブビュー、再生、ログ検索のみ許可されます。

手順

1. [設定] → [→] → [システム] → [→] → [ユーザー] に移動します。
2. 「追加」をクリックし、管理者パスワードを確認します。
3. ユーザー名を入力します。
4. ユーザーレベルを選択します。
5. 「パスワードの作成」と「確認」に同じパスワードを入力します。

警告

製品のセキュリティ強化のため、ご自身で選択した強力なパスワード（8文字以上で、大文字、小文字、数字、特殊文字の少なくとも3種類を含む）の設定を強く推奨します。また、特に高セキュリティシステムでは、パスワードを定期的に（月次または週次で）リセットすることで製品をより効果的に保護できます。

6. ユーザー権限を設定します。
7. 「OK」をクリックします。
 - ユーザーを編集/削除するには、 /  をクリックしてください。

パスワードリセット用メールアドレスの設定

ログインパターンとパスワードを忘れた場合、デバイスはパスワードリセット用の確認コ

ードを含むメールを登録メールアドレスに送信します。

手順

1. 設定→→ システム→→ ユーザー に移動します。
2. 「パスワードリセットメール」をクリックします。
3. 認証のため管理者パスワードを入力します。
4. メールアドレスを入力します。
5. [OK]をクリックします。

パスワードのリセット

ログインパターンとパスワードを忘れた場合、パスワードをリセットできます。

手順

1. パスワードログイン画面で「パスワードを忘れた場合」をクリックします。
2. プライバシーポリシーに同意する場合は「次へ」をクリック。QRコードをスキャンして確認できます。
3. ウィザードに従ってパスワードをリセットします。

5.1.3 例外

アラームセンターで例外イベントのヒントを受信し、例外連動アクションを設定できます。

手順

1. 設定 →→→ システム →→→ 例外 に移動します。
2. オプション： イベント通知を設定します。設定したイベントが発生すると、アラームセンターで通知を受け取れます。
 - 1) イベント通知を有効化します。
 - 2) ローカルメニュー右上の「」をクリックし、アラームセンターに入ります。
 - 3) イベントタイプを選択します。
 - 4) [Set]をクリックし、通知対象のイベントを選択します。
3. 例外タイプの設定
4. 例外連動アクションとして「通常連動」と「アラーム出力トリガー」を選択する。

Event Hint ☒

Exception Type HDD Full ▼

☐ Normal Linkage	☐ Trigger Alarm Output
☐ Buzzer Alarm	☐ [obscured] >1
☐ Notify Surveillance Center	☐ [obscured] >2
☐ Send Email	

Apply

図5-2 例外

5. [適用]をクリックします。

5.2 ネットワーク構成

5.2.1 概要

ネットワーク経由で本装置を操作する前に、ネットワーク設定を適切に構成してください。

手順

1. 設定→ ネットワーク→ 一般 に移動します。

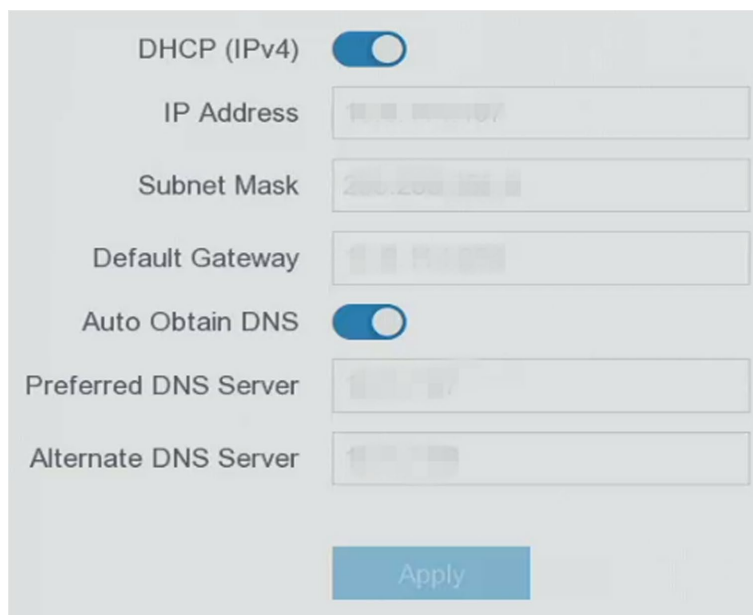


図5-3 ネットワーク

2. ネットワークパラメータを設定します。

DHCP

DHCPサーバーが利用可能な場合、**DHCP**を有効にしてそのサーバーからIPアドレスやその他のネットワーク設定を自動的に取得できます。

自動取得DNS

DHCPが有効な場合。優先**DNS**サーバーと代替**DNS**サーバーを自動的に取得するために、自動取得**DNS**を有効にできます。

3. [適用]をクリックします。

5.2.2 HiLookVision

HiLookVision は、接続されたデバイスにアクセスして管理するための携帯電話アプリケーションおよびプラットフォームサービスを提供しており、ビデオセキュリティシステムへの便利なりモートアクセスを可能にします。

手順

1. [設定] → [→] → [ネットワーク] → [→] → [プラットフォームアクセス] に移動します。
2. アクセス タイプを **HiLookVision** に選択します。
3. [有効化] にチェックを入れます。サービス利用規約が表示されます。
 - 1) QRコードをスキャンし、利用規約とプライバシーポリシーを確認してください。
 - 2) サービス利用規約とプライバシーポリシーに同意する場合は、「サービス利用規約とプライバシーポリシーを読み、同意します」にチェックを入れます。
 - 3) [OK]をクリックします。

4. オプション: ストリーム暗号化にチェックを入れます。この機能を有効にした後、リモートアクセスとライブビューで認証コードの入力が必要になります。
5. オプション: [カスタム] を選択し、[サーバーアドレス] を編集します。
6. 「認証コード」欄にコードを入力してください。「更新」をクリックするとランダムな認証コードが生成されます。
7. デバイスをHiLookVisionアカウントに紐付けます。
 - 1) スマートフォンでQRコードをスキャンし、HiLookVisionアプリをダウンロードしてください。<https://appstore.hikvision.com>または下記のQRコードからもダウンロード可能です。詳細はHiLookVision モバイルクライアントユーザーマニュアルを参照してください。



図5-4 HiLookVisionのダウンロード

- 2) HiLookVisionでデバイスのQRコードをスキャンし、デバイスを紐付けます。

 注意

デバイスが既にアカウントと紐付けされている場合は、現在のアカウントとの紐付けを解除してください。

8. [適用] をクリックします。

次の操作

HiLookVisionからビデオレコーダーにアクセスできます。

5.2.3 メール

イベント通知を受信するメールアカウントを設定します。

開始前に

- メール SMTP サービスが利用可能であることを確認してください。
- ネットワークパラメータを設定します。詳細は「基本設定」を参照してください。

手順

1. [設定] → [→] → [ネットワーク] → [→] → [メール] に移動します。

図5-5 メール

2. メールパラメータを設定します

サーバー認証

サーバー認証機能を有効にするにはチェックを入れます。

ユーザー名

SMTPサーバー認証用のメール送信者のユーザーアカウント。

パスワード

SMTPサーバー認証用のメール送信者のパスワード。

SSL/TLS

（オプション）SMTPサーバーが要求する場合、SSL/TLSを有効にします。

添付画像

（オプション）イベントがトリガーされた場合、画像をメール添付として送信します。

送信者

送信者名。

送信者アドレス

送信者のメールアドレス。

受信者を選択

受信者を選択してください。最大3名まで選択可能です。

受信者

受信者名。

受信者の住所

受信者のメールアドレス。

注記

ネットワークカメラの場合、イベント画像はメールの添付ファイルとして直接送信されます。1台のネットワークカメラが送信する画像は1枚のみです。

3. オプション：テストをクリックしてテストメールを送信します。

4. **[適用]**をクリックします。

5.3 カメラ管理

5.3.1 ネットワークカメラ

デバイスパスワードによるネットワークカメラの追加

ビデオレコーダーと同じパスワードを持つネットワークカメラを追加します。

開始前に

- ネットワークカメラがビデオレコーダーと同じネットワークセグメントにあることを確認してください。
- ネットワーク接続が有効かつ正しいことを確認してください。詳細は [「基本設定」](#) を参照してください。
- ネットワークカメラのパスワードがビデオレコーダーと同一であることを確認してください。

手順

1. 「設定」→「→ カメラ」→「→ IPカメラ」を選択します。ビデオレコーダーと同じネットワークセグメント上のオンラインカメラが「オンラインデバイス一覧」に表示されます。
2. 対象のネットワークカメラを選択します。
3. 「」をクリックしてカメラを追加します。

 注記

カメラが非アクティブ状態の場合、デバイスはアクティベーション時に設定したパスワードを使用して自動的にカメラをアクティブ化します。

4. オプション：ネットワークカメラがNVRと同じネットワークセグメントにない場合、かつONVIFプロトコルをサポートしている場合は、「**詳細検索**」をクリックし、カメラのIPアドレスの最初の3オクテットを入力してカメラを追加します。

ネットワークカメラを手動で追加

開始前に

- ネットワークカメラがビデオレコーダーと同じネットワークセグメント上にあることを確認してください。
- ネットワーク接続が有効かつ正しいことを確認してください。
- ネットワークカメラが起動していることを確認してください。

手順

1. 「**設定**」→「→ **カメラ**」→「→ **IPカメラ**」に移動します。
2. **追加済みデバイス一覧**で「」をクリックします。
3. IPアドレス、プロトコル、管理ポートなどのネットワークカメラパラメータを設定します。
4. オプション：[**カメラ起動パスワードを使用**] を有効にし、デバイスパスワードを使用してネットワークカメラを追加します。
5. オプション：[**さらに追加**]をクリックして別のネットワークカメラを追加します。
6. 「**追加**」をクリックします。

図5-6 ネットワークカメラの追加

接続済みネットワークカメラの編集

追加したネットワークカメラのIPアドレス、プロトコル、その他のパラメータを編集できます。

手順

1. 設定→ カメラ→ IPカメラ に移動します。
2. 選択したカメラを編集するには、[] をクリックします。

チャンネルポート

接続デバイスが複数チャンネル対応のエンコーディングデバイスである場合、接続するチャンネルを選択するためにチャンネルポート番号を選択できます。

3. [OK]をクリックします。

リモート設定の構成

ウェブブラウザ経由でのみ設定可能だったカメラパラメータについて、リモート設定機能はリモートカメラパラメータを設定するための操作インターフェースを提供します。

開始前に

カメラが正しく接続されていることを確認してください。

手順

1. 「設定」→「→ カメラ」→「→ IPカメラ」に移動します。
2. 「リモート設定」をクリック
3. デバイスリソースが初期化された後、カメラを選択します。
4. カメラパラメータを設定します。

ネットワークカメラのアップグレード

ネットワークカメラはデバイス経由でリモートアップグレードが可能です。

開始前に

- USBフラッシュドライブがデバイスに挿入されていること、およびネットワークカメラのアップグレードファームウェアが含まれていることを確認してください。
- ネットワークカメラがビデオレコーダーと同じネットワークセグメントにあることを確認してください。
- ネットワーク接続が有効かつ正しいことを確認してください。

手順

1. 「設定」→「→ カメラ」→「→ IPカメラ」に移動します。
2. 「」をクリックします。
3. 確認のため「はい」をクリックします。
4. ストレージデバイスからカメラのアップグレード用ファームウェアを選択します。
5. 「アップグレード」をクリックしてアップグレードを開始します。アップグレード完了後、カメラは自動的に再起動します。

高度なカメラパラメータの設定

カメラのIPアドレスやパスワードなどの詳細な設定が可能です。

開始前に

- ネットワークカメラがビデオレコーダーと同じネットワークセグメントにあることを確認してください。
- ネットワーク接続が有効かつ正しいことを確認してください。

手順

1. 設定→ カメラ→ IPカメラ に移動します。
2. 「」をクリックします。

3. IPアドレス、カメラパスワードなどのカメラパラメータを設定します。
4. [適用]をクリックします。

5.3.2 OSD設定

カメラのOSD（画面表示）設定（日付形式、カメラ名など）を構成します。

手順

1. 「設定」→「カメラ」→「OSD」に移動します。
2. カメラを選択します。

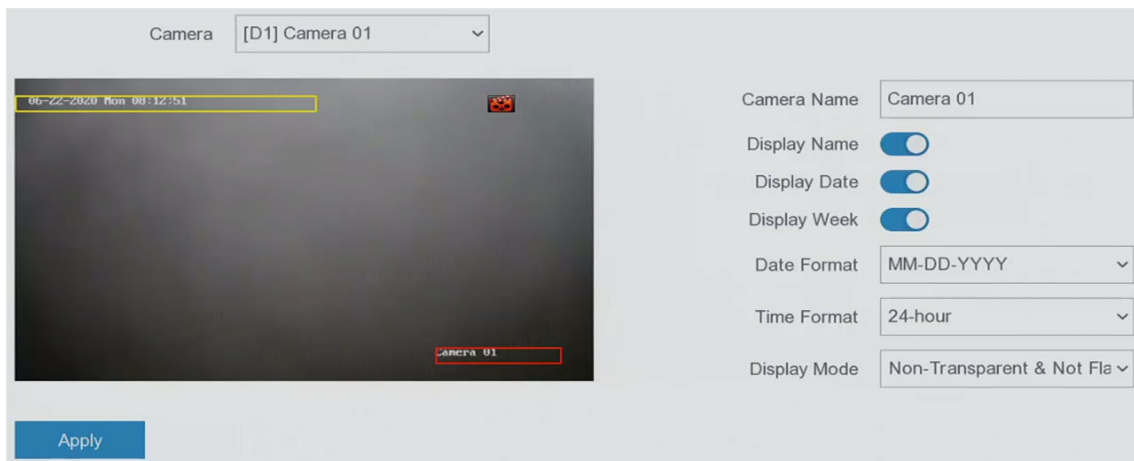


図5-7 OSD

3. 必要に応じてパラメータを設定します。
4. プレビューウィンドウ上のテキスト枠をドラッグしてOSDの位置を調整します。
5. [適用]をクリックします。

5.3.3 イベント

モーション検知

モーション検知により、ビデオレコーダーは監視エリア内の移動物体を検知し、アラームをトリガーすることができます。このデバイスは、人や車両を含むビデオを分析し、人や車両によってトリガーされなかったアラームを排除することができます。

手順

注記

お使いのデバイスのVCAモードが「NVRによる設定」に設定可能な場合、この機能はデフォルトで有効になります。デフォルトの検知エリアは全画面です。

1. 設定→ カメラ→ イベント→ モーション検知 に移動します。

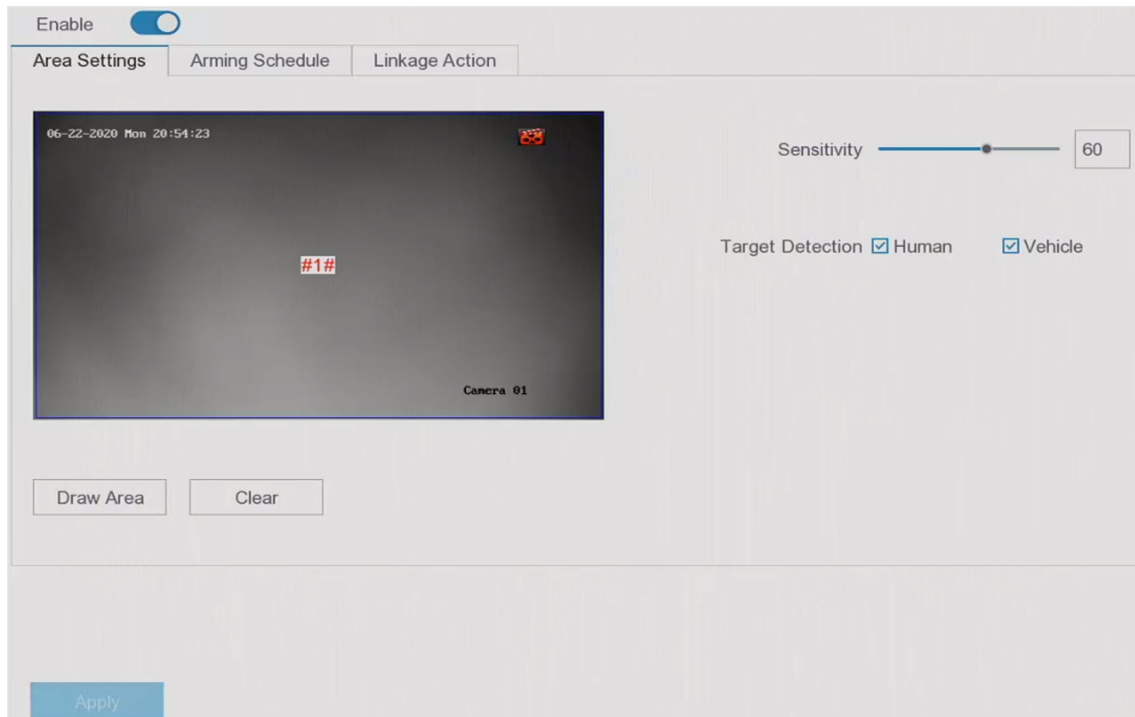


図5-8 モーション検知

2. カメラを選択します。
3. 「有効」をオンにします。
4. VCAモードを「NVRによる」または「カメラによる」に設定します。

NVRによる

モーション検知イベントはNVRによって分析されます。本デバイスは人物や車両を含む動画を分析可能です。選択した対象タイプ（人物または車両）のみが警報をトリガーするため、他の物体による誤警報を低減できます。

カメラによる

モーション検知イベントはカメラによって分析されます。

5. モーション検知エリアを設定します。
 - 「領域を描画」または「クリア」をクリックして領域を描画またはクリアします。最初の領域はデフォルトで全画面に設定されます。
 - 「全画面」をクリックすると、モーション検知エリアを全画面に設定します。プレビューウィンドウ上でドラッグしてモーション検知エリアを描画できます。
6. 感度を調整します。感度を調整することで、動きがアラームをトリガーする容易さを設定できます。値が高いほど、動き検出がより容易にトリガーされます。
7. オプション：ターゲット検出を「人」または「車両」に設定し、人または車両以外の要因によるアラームを排除します。

注意

VCAモードを「**NVRによる**」に設定した場合、人物/車両ターゲット検出は4K/2K出力解像度と競合します。解像度を下げる必要があります。

8. 警戒スケジュールを設定します。詳細は [「警戒スケジュールの設定」](#) を参照してください。
9. 連動アクションを設定します。詳細は [「連動アクションの設定」](#) を参照してください。
10. 「適用」をクリックします。

警備スケジュール設定

手順

1. 「武装スケジュール」を選択します。
2. 週の1日を選択し、時間帯を設定します。1日あたり最大8つの時間帯を設定できます。

注記

時間帯は重複または重なって設定できません。

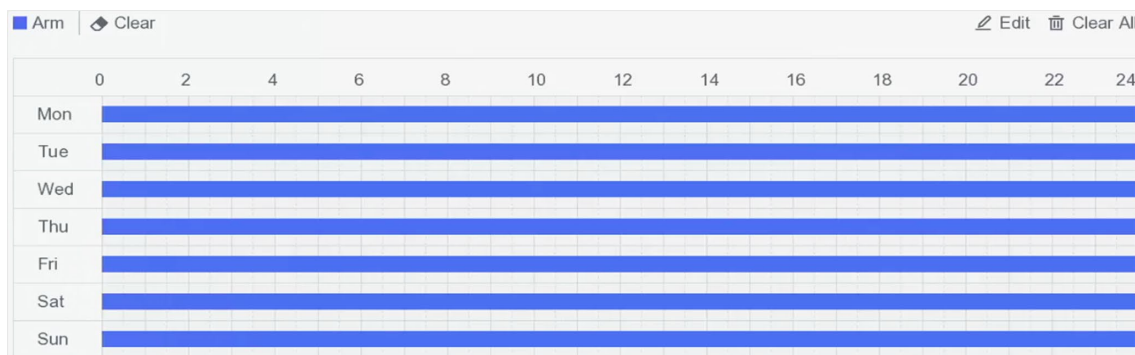


図5-9 警備スケジュール設定

3. 「適用」をクリックします。

アラーム連動アクションの設定

アラームまたは例外が発生すると、アラーム連動アクションが作動します。

手順

1. 「連動アクション」をクリックします。
2. 通常連動アクション、アラーム出力連動アクション、トリガーチャンネルなどを設定します。

アラームポップアップウィンドウ

アラームがトリガーされると、ローカルモニターにアラーム発生チャンネルの画像がポップアップ表示されます。トリガーチャンネルでアラーム発生チャンネルを選択する必要があります。

ブザーアラーム

アラーム発生時にブザー音を発します。

監視センターへの通知

アラーム発生時に、デバイスは例外またはアラーム信号をリモートクライアントソフトウェアに送信します。

メール送信

アラームが作動した際に、アラーム情報を記載したメールを送信します。

PTZ連動

スマートイベント発生時にPTZ操作（プリセット呼び出し/パトロール/パターンなど）を実行します。

音声と光のアラーム連動

特定のネットワークカメラでは、警報連動動作を音声警報または光警報に設定できます。

注意

- カメラが音声および光警報連動に対応していることを確認してください。
 - 音声出力と音量が適切に設定されていることを確認してください。
 - 音声およびライトのパラメータ設定が必要な場合は、Webブラウザからネットワークカメラにログインして設定してください。
-

3. [適用]をクリックします。

5.4 録画管理

5.4.1 ストレージデバイス

HDD の初期化

新しく取り付けしたハードディスクドライブ (HDD) は、ビデオや情報を保存するために使用できるようになる前に、初期化する必要があります。

開始前に

ビデオレコーダーに少なくとも1台のHDDを取り付けてください。詳細な手順については

クイックスタートガイドを参照してください。

手順

1. 「設定」→「→」→「記録」→「→」→「ストレージ」に移動します。
2. HDDを選択します。
3. 「初期化」をクリックします。

データベース修復

データベースにエラーが発生したHDDを修復します。専門の技術サポートの支援のもとで操作してください。

セキュア消去

セキュア消去は選択したディスク内の動画を削除します。

ネットワークディスクの追加

割り当て済みのNASまたはIP SANディスクをビデオレコーダーに追加し、ネットワークHDDとして使用できます。

手順

1. 設定→ 記録→ ストレージ に移動します。
2. 「追加」をクリックします。
3. **NetHDD**を選択します。
4. タイプを**NAS**または**IP SAN**に設定します。
5. **NetHDD**のIPアドレスを入力します。
6. 「」をクリックして利用可能なディスクを検索します。

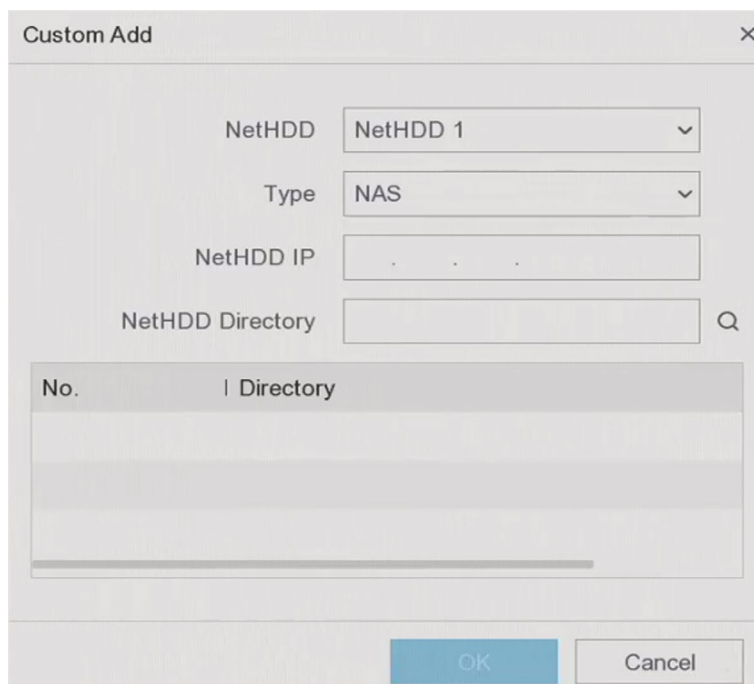


図5-10 NetHDDの追加

7. リストからNASディスクを選択するか、**NetHDD**ディレクトリに手動でディレクトリを入力します。
8. **[OK]**をクリックします。追加された**NetHDD**がストレージデバイス一覧に表示されます。

5.4.2 録画スケジュールの設定

ビデオレコーダーは設定されたスケジュールに従って自動的に録画を開始/停止します。

連続録画の設定

手順

1. 「設定」→「→」→「→」パラメータに移動します。
2. カメラのメインストリーム/サブストリーム連続録画パラメータを設定します。詳細は 録画パラメータの設定 を参照してください。
3. 設定→**Record**→**Schedule** に移動します。
4. 録画タイプを「**連続**」に選択します。詳細は「スケジュールの編集」を参照してください。

イベント録画の設定

モーション検知、ライン越え検知、侵入検知によってトリガーされる録画を設定できま

す。

手順

1. 設定→ イベント→ スマートイベント に移動します。
2. イベント検知を設定し、イベント発生時に録画をトリガーするチャンネルを選択します。
3. 設定 →→→ 記録 →→→ パラメータ に移動します。
4. カメラの連続メインストリーム/サブストリーム録画パラメータを設定します。詳細は 録画パラメータの設定を参照してください。
5. 設定→ Record→ Schedule に移動します。
6. 録画タイプを「イベント」に選択します。詳細は「スケジュールの編集」を参照してください。

スケジュールの編集

手順

1. 設定→ 記録→ スケジュール に移動します。

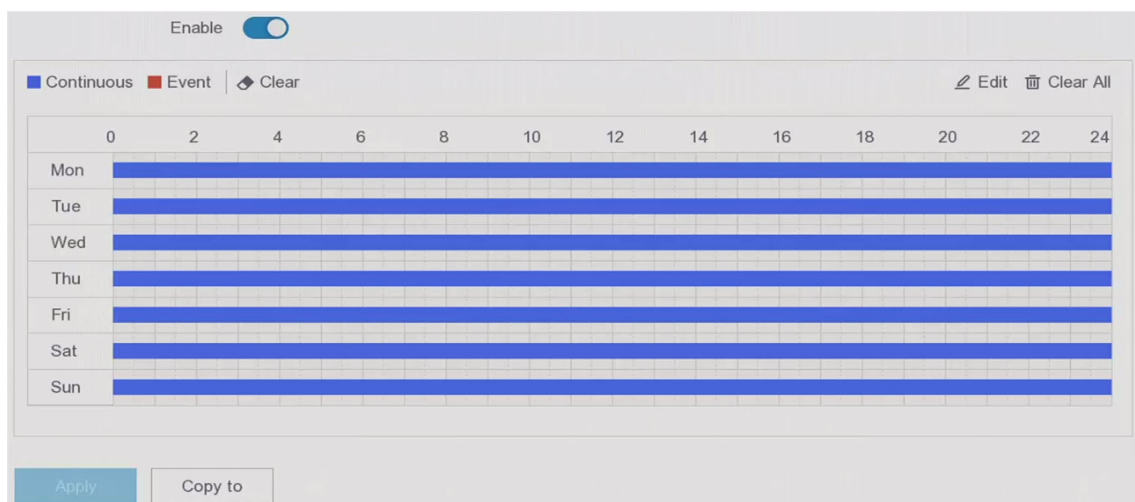


図5-11 録画スケジュール

連続

連続録画。

イベント

イベントによって録画がトリガーされます。

2. カメラ番号でカメラを選択します。
3. 有効化をオンにする。
4. 録画スケジュールを設定します。

スケジュールの編 1. 編集をクリックします。

集

2. 「平日」で設定する曜日を選択します。
3. 終日録画スケジュールを設定するには、「終日」にチェックを入れ、スケジュールタイプを選択します。
4. その他のスケジュールを設定するには、「終日」のチェックを外し、「開始/終了時間」とスケジュールタイプを設定します。



1日あたり最大8つの時間帯を設定できます。また、時間帯同士が重複することはできません。

5. 設定を保存して上位メニューに戻るには「OK」をクリックしてください。

スケジュールを描画

1. クリックしてスケジュールタイプを「連続」または「イベント」から選択します。
2. テーブル上で、希望する期間にマウスをドラッグして色付きのバーを描画します。

5. [適用]をクリックします。

5.4.3 記録パラメータの設定

手順

1. [設定] → [→] → [Record] → [→] → [Parameter] に移動します。
2. 録画パラメータを設定します。

メインストリーム

メインストリームとは、ハードディスクドライブに記録されるデータに影響を与える主要ストリームを指し、動画品質と画像サイズを直接決定します。サブストリームと比較して、メインストリームはより高い解像度とフレームレートで高品質な動画を提供します。

サブストリーム

サブストリームはメインストリームと並行して動作する第二のコーデックです。直接録画品質を損なうことなく、インターネット送信帯域幅を削減できます。サブストリームは主にスマートフォンアプリがライブ映像を視聴するために使用されます。インターネット速度が制限されているユーザーはこの設定から最大の恩恵を受けられます。

フレームレート

フレームレートとは、1秒間にキャプチャされるフレーム数を指します。動画ストリームに動きがある場合、フレームレートが高いほど画質が維持されるため有利です。

解像度

画像解像度は、デジタル画像が保持できる詳細度の尺度です。解像度が高いほど、詳細レベルも高くなります。解像度は、ピクセル列数（幅）×ピクセル行数（高さ）で指定されます。例：1024×768。

ビットレート

ビットレート（Kbit/sまたはMbit/s単位）は速度と呼ばれることが多いが、実際には時間単位あたりのビット数（ ）を定義するもので、距離/時間単位ではない。

注

解像度、フレームレート、ビットレートが高いほど、より高品質のビデオが得られますが、より多くのインターネット帯域幅を必要とし、ハードディスクドライブのストレージ容量もより多く使用します。

3. **[適用]**をクリックします。

第6章 設定（エキスパートモード）

設定に移動し、左下隅の「エキスパートモード」をクリックします。

6.1 システム設定

6.1.1 基本設定

基本設定の構成

言語、システム時刻、出力解像度、マウスポインタ速度、ロック画面パスワードなどを設定できます。

設定→ システム→ 一般→ **基本設定** に移動し、必要に応じてパラメータを設定して、**適用** をクリックします。

言語

デフォルトの言語は**英語**です。

VGA/HDMI解像度

出力解像度を選択します。これは VGA/HDMI ディスプレイの解像度と同じである必要があります。

ロック画面パスワード

画面がロックされている場合、認証のためにパスワードを入力する必要があります。

マウスポインタ速度

マウスポインタの速度を設定します。4段階の設定が可能です。

ウィザード

デバイス起動後にウィザードが表示されます。

拡張デコードモード

拡張デコードモードを無効にすると、ローカルデコード能力が半減し、デバイスが再起動します。

DST設定の構成

DST（夏時間）とは、時計を1時間進める期間を指します。世界の一部の地域では、これにより最も気温が高い時期の夕方に日照時間が長くなる効果があります。

設定→ システム→ 一般→ **DST設定** に移動し、必要に応じてパラメータを設定して**適用**を

クリックします。

詳細設定の構成

デバイス名、ロック画面時間、出力モードなどを設定できます。

設定→ システム→ 一般→ 詳細設定 に移動し、必要に応じてパラメータを設定して「適用」をクリックします。

デバイス名

ビデオレコーダーの名前を編集します。

デバイス番号

リモートコントロールやネットワークキーボードなどとの接続時に必要な番号です。ビデオレコーダーのシリアル番号を編集します。デバイス番号の範囲は1から255までで、デフォルト値は255です。

画面ロック

画面ロックのタイムアウト時間を設定します。

HDMI/VGA同時出力有効化

HDMIとVGAインターフェースの同時出力を有効にします。

6.1.2 ライブビュー

一般パラメータの設定

出力インターフェースの設定、音声のミュートまたはオン、イベント出力インターフェースなどを設定できます。

手順

1. **[設定]→ [システム]→ [ライブビュー]→ [一般]** に移動します。

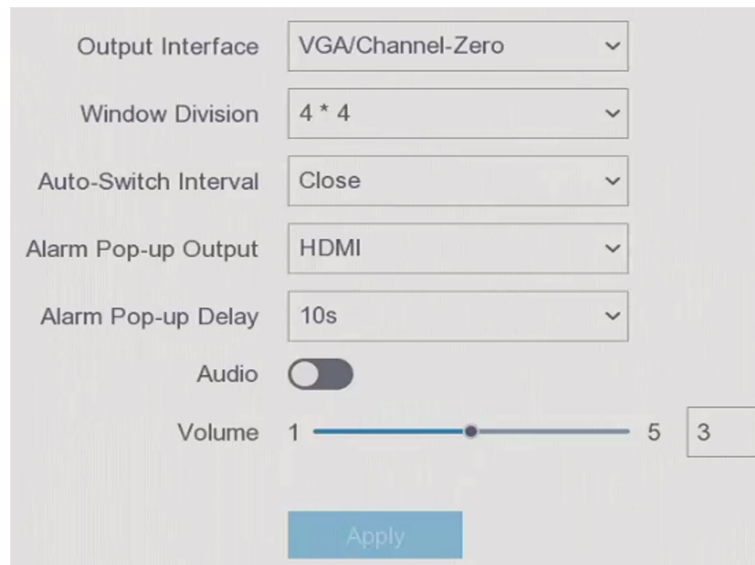


図6-1 ライブビュー-一般

2. ライブビューのパラメータを設定します。

ウィンドウ分割

ライブビューのウィンドウ分割を選択します。

自動切り替え間隔

ライブビューで自動切り替えが有効な場合、カメラに滞在する時間。

アラームポップアップ出力

アラーム動画を表示する出力先を選択します。

アラームポップアップ遅延

アラームイベント画像を表示する時間を設定します。

オーディオ

選択した映像出力の音声出力をオン/オフします。

音量

選択したビデオ出力インターフェースのライブビュー、再生、双方向オーディオの音量を調整します。

3. [適用]をクリックします。

ライブビューレイアウトの設定

手順

1. [設定] → [→] → [システム] → [→] → [ライブビュー] → [→ ビュー] に移動します。
2. 「出力インターフェース」を設定します。

3. ウィンドウを選択し、表示したいカメラをリストからダブルクリックします。「+」はウィンドウにカメラを表示しないことを意味します。
4. オプション: 全カメラのライブビューを開始または停止するには、[🔄] または [🛑] をクリックします。
5. [Apply] をクリックします。

Channel-Zero エンコーディングの設定

ウェブブラウザやCMS（クライアント管理システム）ソフトウェアから多数のチャンネルをリアルタイムでリモート表示する必要がある場合、画質を損なわずに帯域幅要件を削減するため、チャンネルゼロエンコーディングを有効にします。

手順

1. 設定→ システム→ ライブビュー→ 一般 に移動します。
2. ビデオ出力インターフェースを **Channel-Zero** に設定してください。
3. 設定→ システム→ ライブビュー→ **Channel-Zero** に移動します。

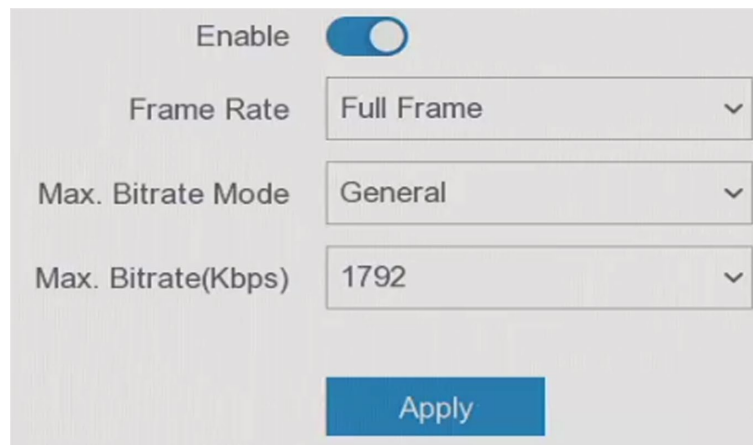


図6-2 Channel-Zero

4. [有効化]をオンにする。
5. フレームレート、最大ビットレートモード、最大ビットレートを設定します。フレームレートとビットレートが高いほど、より高い帯域幅が必要となります。
6. [適用]をクリックします。

6.1.3 ユーザー

詳細は「[ユーザー](#)」を参照してください。

6.2 ネットワーク設定

6.2.1 TCP/IP

ネットワーク経由でビデオレコーダーを操作する前に、TCP/IP を適切に設定する必要があります。

手順

1. [設定]→[ネットワーク]→[一般]→[TCP/IP] に移動します。
2. ネットワークパラメータを設定します。

動作モード

マルチアドレスモード

2枚のNICカードのパラメータは個別に設定可能です。パラメータ設定では、NICタイプフィールドでLAN1またはLAN2を選択できます。いずれか1枚のNICカードをデフォルトルートとして選択できます。これにより、システムはエクストラネットに接続され、データはデフォルトルートを経由して転送されます。

ネットフォールトトレランスモード

2枚のNICカードは同一のIPアドレスを使用し、メインNICをLAN1またはLAN2に選択できます。これにより、1枚のNICカードに障害が発生した場合、ビデオレコーダーは自動的に待機中のもう1枚のNICカードを有効化し、システム全体の正常な稼働を確保します。

負荷分散モード

同一IPアドレスを使用し、2枚のNICカードが総帯域幅の負荷を共有することで、システムは2つのギガビットネットワーク容量を提供します。



動作モードは特定モデルでのみ利用可能です。

NICタイプ

ご希望に応じてNICタイプを選択してください。お使いのデバイスがWi-Fi Dongle機能をサポートしている場合、適切なWi-Fi Dongleをインストールすると、そのDongleのNICが選択可能になります。

DHCP

DHCPサーバーが利用可能な場合、「**DHCPを有効にする**」にチェックを入れることで、そのサーバーから自動的にIPアドレスやその他のネットワーク設定を取得できます。

MTU

最大伝送単位（MTU）とは、単一のネットワークトランザクションで通信可能な最大サイズのネットワーク層プロトコルデータ単位を指します。

デフォルトルート

ご希望のルートを選択してください。お使いのデバイスがWi-Fi dongle機能をサポートしている場合、適切なWi-Fi dongleをインストールすると、Wi-Fi dongleのルートが選択可能になります。

DNSの自動取得

DHCPがチェックされている場合、「DNSを自動的に取得」を選択すると、優先DNSサーバーと代替DNSサーバーを取得できます。

3. [適用]をクリックします。

6.2.2 DDNS

ダイナミックドメインネームサーバー（DDNS）は、動的なユーザー IP アドレスを固定のドメインネームサーバーにマッピングします。

開始前に

DynDNS、PeanutHull、NO-IPサービスをISPに登録してください。

手順

1. 設定→ ネットワーク→ 一般→ **DDNS** に移動します。

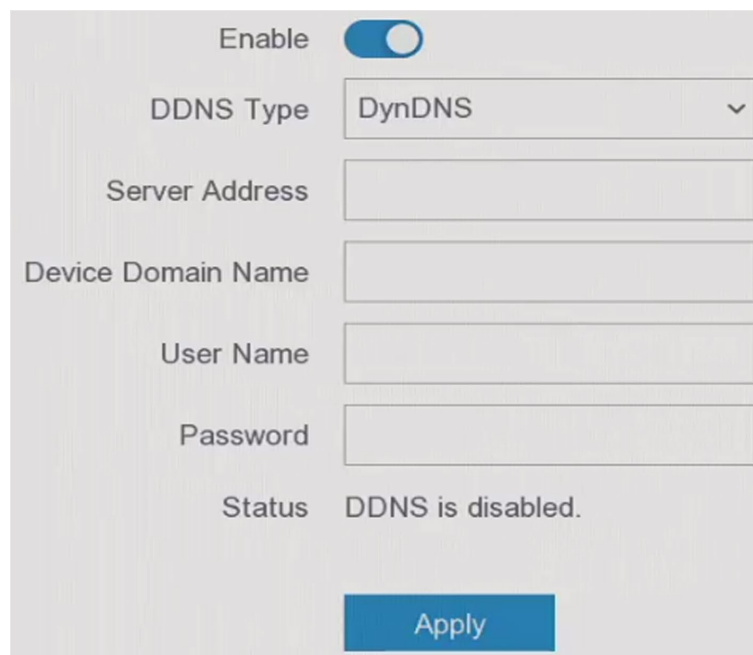


図6-3 DDNS

2. [有効] をオンにします。
3. DDNSタイプを選択します。

4. サービスアドレス、ドメイン名などのパラメータを入力します。

5. **[適用]**をクリックします。

次の操作

ステータスでDDNSの状態を確認できます。

6.2.3 NAT

クロスセグメントネットワーク経由のリモートアクセスを実現するためのポートマッピングには、UPnP（™）と手動マッピングの 2 つの方法があります。

開始前に

™UPnP™ が必要な場合は、ルーターの UPnP 機能（ ）を有効にしてください。デバイスのネットワーク動作モードがマルチアドレスの場合、デフォルトのデバイスルートはルーターの LAN IP アドレスと同じネットワークセグメント上にある必要があります。

手順

→1. **[設定]** → **[ネットワーク設定]** → **[一般設定]** → **[→]** → **[NAT]** に移動します。

Type	Operation	External Port	External IP Address	Internal Port	UPnP Status
HTTP Port		80	0.0.0.0	80	Inactive
RTSP Port		554	0.0.0.0	554	Inactive
Server Port		8000	0.0.0.0	8000	Inactive
HTTPS Port		443	0.0.0.0	443	Inactive
HIK Cloud P2P Command...		9010	0.0.0.0	9010	Inactive
Cloud P2P Data Port		9020	0.0.0.0	9020	Inactive

図 6-4 NAT

2. **[有効化]** をオンにします。

3. マッピングタイプを「手動」または「自動」に選択

自動

ポートマッピング項目は読み取り専用であり、外部ポートはルーターによって自動的に設定されます。最新状態を取得するには「更新」をクリックしてください。

手動

外部ポートタイプを選択します。「」をクリックして**外部ポート**を編集します。デフォルトの外部ポート番号を使用するか、実際の要件に応じて変更できます。**外部ポート**はルーター内のポートマッピング用ポート番号を示します。

™RTSPポート番号の値は554または1024～65535の範囲である必

必要があります。その他のポートの値は1～65535の範囲で、各ポート番号は互いに異なる値である必要があります。同一ルーター下で複数のデバイスがUPnP自動ポートマッピング設定に構成されている場合、各デバイスのポート番号は一意である必要があります。

4. ルーターの仮想サーバーを設定します（内部送信元ポート、外部送信元ポートなど）。仮想サーバーのパラメータは、お使いのデバイスのポートに対応している必要があります。

6.2.4 ポート（詳細設定）

異なるポートタイプを設定し、必要な機能を有効にします。

設定→ ネットワーク→ 一般→ 詳細設定 に移動します。

アラームホスト IP/ポート

アラーム発生時、本デバイスはアラームホストへアラームイベントまたは例外メッセージを送信します。リモートアラームホストにはクライアント管理システム（CMS）ソフトウェアのインストールが必要です。

アラームホストIPは、CMSソフトウェア（例：iVMS-4200）がインストールされているリモートPCのIPアドレスを指し、アラームホストポート（デフォルト7200）はソフトウェアで設定されたアラーム監視ポートと同じである必要があります。

サーバーポート

リモートクライアントソフトウェアアクセス用。2000～65535の範囲。デフォルト値は8000。

HTTPポート

リモートWebブラウザアクセス用。デフォルト値は80。

マルチキャストIP

ネットワーク経由で許可される最大台数を超えるカメラのライブビューを有効にするため、マルチキャストを設定できます。マルチキャストIPアドレスは224.0.0.0から239.255.255.255までのクラスD IPをカバーし、239.252.0.0から239.255.255.255の範囲のIPアドレスの使用が推奨されます。

CMS ソフトウェアにデバイスを追加する場合、マルチキャストアドレスはデバイスのアドレスと同じである必要があります。

RTSPポート

RTSP（リアルタイムストリーミングプロトコル）は、ストリーミングメディアサーバーを制御するためにエンターテインメントおよび通信システムで 사용되는ネットワーク制御プロトコルです。デフォルトのポートは554です。

出力帯域幅制限

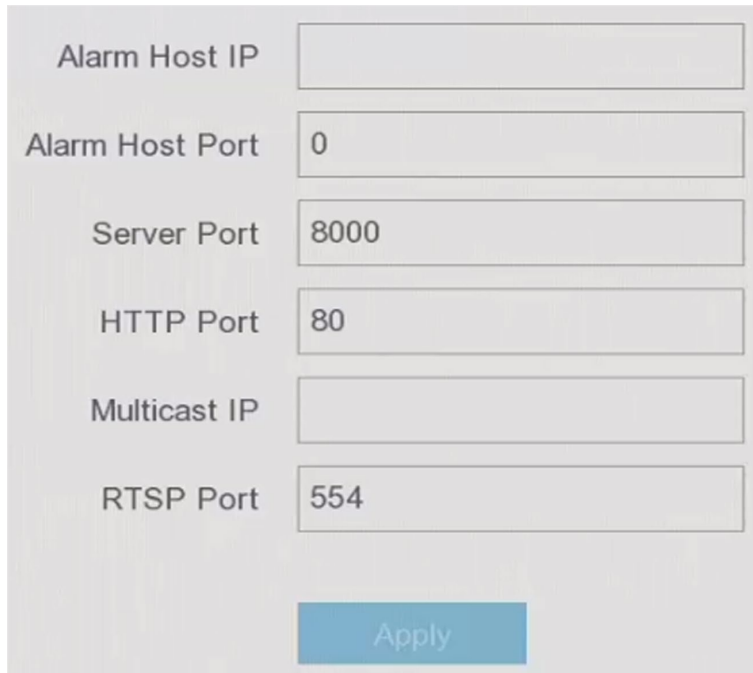
出力帯域幅制限を有効にするには、チェックボックスをオンにします。

出力帯域幅

出力帯域幅制限を有効にした後、出力帯域幅を入力してください。

注記

- 出力帯域幅制限は、リモートライブビューおよび再生に使用されます。
- デフォルトの出力帯域幅は最大制限値です。



Alarm Host IP	
Alarm Host Port	0
Server Port	8000
HTTP Port	80
Multicast IP	
RTSP Port	554

Apply

図 6-5 ポート設定

6.2.5 サーバーへのログアップロード

システムログをサーバーにアップロードしてバックアップできます。

手順

1. [設定] → [→] → [ネットワーク] → [→] → [一般] → [→] → [ログサーバー設定] に移動します。



図6-6 ログサーバー設定

2. 有効化をオンにする
3. アップロード間隔、サーバーIPアドレス、ポートを設定します。
4. オプション: [テスト] をクリックし、パラメータが有効かどうかをテストします。
5. [適用] をクリックします。

6.2.6 HiLookVision

設定→ ネットワーク→ プラットフォームアクセス に移動。詳細はHiLookVisionを参照。

6.2.7 メール

設定→ ネットワーク→ メール に移動します。詳細は [メール](#) を参照してください。

6.3 カメラ管理

6.3.1 ネットワークカメラ

自動的に検索されたオンラインネットワークカメラを追加

ネットワークカメラをビデオレコーダーに追加します。

開始前に

- ネットワークカメラがビデオレコーダーと同じネットワークセグメントにあることを確認してください。
- ネットワーク接続が有効かつ正しいことを確認してください。
- ネットワークカメラのパスワードがビデオレコーダーと同一であることを確認してください。

手順

1. 「設定」→「→ カメラ」→「→ カメラ」に移動します。
2. 「オンラインデバイス一覧」をクリックします。同じネットワークセグメント上のオンラインカメラが一覧に表示されます。

Online Device List

+ Add

+ Add All

Activate All

Refresh

☒	No.	IP Address	Status	Operation	Protocol	Management Port
☒	1					8000

図6-7 オンラインデバイス

3. オプション：一括編集でカメラIPアドレスを編集するには「IP編集」をクリックします。システムは選択したカメラに順番にIPアドレスを割り当てます。

注記

選択したカメラが有効化されていることを確認してください。

4. ネットワークカメラを選択し、「追加」をクリックして追加します。

ネットワークカメラを手動で追加

ネットワークカメラをビデオレコーダーに追加します。

開始前に

- ネットワークカメラがビデオレコーダーと同じネットワークセグメントにあることを確認してください。
- ネットワーク接続が有効かつ正しいことを確認してください。
- ネットワークカメラが有効になっていることを確認してください。

手順

1. [設定]→[→ カメラ]→[→ カメラ] に移動します。
2. [+] をクリックします。

図6-8 IPカメラの追加

3. ネットワークカメラのパラメータを入力します。

カメラ有効化パスワードの使用

有効にすると、ビデオレコーダーは設定されたチャンネルのデフォルトパスワードでカメラを追加します。

4. 「追加」をクリックします。

異なるネットワークセグメント上のネットワークカメラの追加

ネットワークカメラが別のネットワークセグメントにある場合、デバイスは指定されたIPアドレス範囲内でそのIPアドレスを検索し、追加できます。

開始前に

- ネットワーク接続が有効かつ正しいことを確認してください。
- ネットワークカメラのパスワードがビデオレコーダーと同一であることを確認してください。

手順

1. 設定 → カメラ → カメラ → IPチャンネル に移動します。
2. 「詳細検索」をクリックします。
3. ネットワークセグメントを入力します。

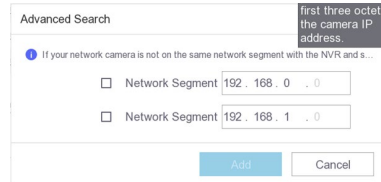


図6-9 ネットワークセグメントの入力

4. [追加]をクリックします。

プラグアンドプレイによるネットワークカメラの追加

非アクティブなネットワークカメラまたはサードパーティ製 ONVIF カメラがネットワークに接続されている場合、ビデオレコーダーが自動的にカメラを検出して追加するか、手動で追加するよう通知します。

手順

1. 設定 → カメラ → カメラ → IPチャンネル に移動します。
2. [詳細設定]をクリックします。
3. プラグアンドプレイを選択します。
4. オプション: ネットワークカメラの自動追加を有効にします。ビデオレコーダーが非アクティブなネットワークカメラやサードパーティ製ONVIFカメラを自動的に検出して追加します。

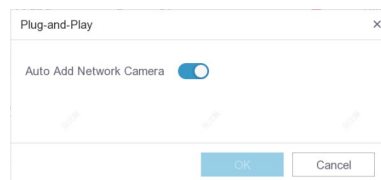


図6-10 ネットワークカメラの自動追加

注記

「ネットワークカメラの自動追加」を無効にした場合、非アクティブなネットワークカメラまたはサードパーティ製ONVIFカメラがネットワークに接続されると、ビデオレコーダーが自動的にそれを検出し、追加を通知します。

ネットワークカメラの編集

ネットワークカメラのIPアドレス、プロトコル、その他のパラメータを編集できます。

手順

1. 「設定」→「→ カメラ」→「→ カメラ」に移動します。
2. 追加済みのネットワークカメラの「」をクリックします。

チャンネルポート

接続デバイスが複数チャンネル対応のエンコーディングデバイスである場合、ドロップダウンリストからチャンネルポート番号を選択して接続するチャンネルを選べます。

3. オプション: **[IP編集]**をクリックすると、カメラのIPアドレスを一括編集できます。システムは選択したカメラに順番にIPアドレスを割り当てます。
4. **[OK]**をクリックします。

ネットワークカメラのアップグレード

ネットワークカメラは、デバイスを介してリモートでアップグレードできます。

開始前に

- USBフラッシュドライブがデバイスに挿入されていること、およびネットワークカメラのアップグレードファームウェアが含まれていることを確認してください。
- ネットワークカメラがビデオレコーダーと同じネットワークセグメントにあることを確認してください。
- ネットワーク接続が有効かつ正しいことを確認してください。

手順

1. **[設定]**→**[→ カメラ]**→**[→ カメラ]**に移動します。
2. 「」をクリックします。
3. 確認のため「はい」をクリックします。
4. ストレージデバイスからカメラのアップグレード用ファームウェアを選択します。
5. 「アップグレード」をクリックしてアップグレードを開始します。アップグレード完了後、カメラは自動的に再起動します。

PoE経由でのネットワークカメラの追加

PoEインターフェースにより、接続されたPoEカメラへ電力とデータを伝送できます。PoEインターフェースはプラグアンドプレイ機能をサポートします。接続可能なPoEカメラの台数は機種によって異なります。PoEインターフェースを無効にした場合、オンラインネ

ネットワークカメラの接続にも使用できます。

PoEカメラの追加

手順

1. 「設定」→「→ カメラ」→「→ カメラ」→「→ PoE設定」に移動します。
2. 長距離モードまたは短距離モードを選択して、長距離ネットワークケーブルモードを有効または無効にします。

長距離

PoEインターフェース経由の長距離（100～300メートル）ネットワーク伝送。

短距離

PoEインターフェース経由の短距離（100メートル未満）ネットワーク伝送。

注記

- PoEポートはデフォルトで短距離モードが有効です。
 - 長いネットワークケーブル（100～300メートル）を介してPoEに接続されたIPカメラの帯域幅は、6 Mbpsを超えることはできません。
 - IPカメラのモデルやケーブル材質によって、許容される最長ネットワークケーブルは300メートル未満の場合があります。
 - 伝送距離が 100～250 メートルに達する場合は、CAT5e または CAT6 ネットワークケーブルを使用して PoE インターフェースに接続する必要があります。
 - 伝送距離が 250～300 メートルに達する場合は、CAT6 ネットワークケーブルを使用して PoE インターフェースに接続する必要があります。
-

Channel No. ↕	○ Long Distance	● Short Distance	Channel Status	Actual Power
D1	○	●	Connected	3.5
D2	○	●	Disconnected	0.0
D3	○	●	Disconnected	0.0
D4	○	●	Disconnected	0.0
D5	○	●	Disconnected	0.0
D6	○	●	Disconnected	0.0
D7	○	●	Disconnected	0.0
D8	○	●	Disconnected	0.0
D9	○	●	Disconnected	0.0
D10	○	●	Disconnected	0.0
D11	○	●	Disconnected	0.0
D12	○	●	Disconnected	0.0
D13	○	●	Disconnected	0.0
D14	○	●	Disconnected	0.0
D15	○	●	Disconnected	0.0

図 6-11 PoE カメラの追加

3. [適用]をクリックします。

4. PoEカメラをネットワークケーブルでデバイスのPoEインターフェースに接続します。

次の操作

接続されたPoEカメラは、設定→カメラ→カメラ→IPチャンネルに表示されます。ステータスをクリックするとライブ映像を確認できます。

非PoEネットワークカメラの追加

PoEチャンネルリソースを使用して、非PoEネットワークカメラを接続できます。

手順

1. [設定]→[→カメラ]→[→カメラ]→[→IPチャンネル]に移動します。

2. ネットワークカメラがリンクされていないチャンネルの「」をクリックします。

3. 追加方法を「手動」に選択します。

プラグアンドプレイ

カメラは物理的にPoEインターフェースに接続されています。追加されたデバイス一覧で「」をクリックすると、そのパラメータを編集できます。

手動

ネットワークケーブルによる物理的な接続なしにIPカメラを追加します。

4. ユーザー名、パスワード、IPアドレスなどのその他のパラメータを設定します。

カメラの詳細パラメータ設定

カメラのIPアドレスやパスワードなどの詳細なカメラパラメータを設定できます。

開始前に

- ネットワークカメラがビデオレコーダーと同じネットワークセグメントにあることを確認してください。
- ネットワーク接続が有効かつ正しいことを確認してください。

手順

1. [設定] → [→ カメラ] → [→ カメラ] に移動します。
2. 「」をクリックします。
3. IPアドレス、カメラパスワードなどのカメラパラメータを設定します。
4. [適用]をクリックします。

チャンネルタイプの設定

PoEチャンネルを無効化することで、通常のIPチャンネルリソースをさらに増やすことができます。

設定→ Camera→ Camera→ PoE バインディング設定 に移動し、PoE チャンネル を希望通りに設定します。

☐ Enable	Channel No.
☒	D1
☒	D2
☐	D3
☐	D4
☐	D5
☐	D6
☐	D7
☐	D8
☐	D9
☐	D10
☐	D11
☐	D12
☐	D13
☐	D14
☐	D15
☐	D16

Apply

図 6-12 PoE バインディング設定

チャンネル順序の並べ替え

設定→ カメラ→ カメラ に移動します。詳細については、[を参照してください](#)。

リモート設定の構成

設定→ カメラ→ カメラ に移動します。詳細については、[リモート設定の構成](#)を参照してください。

IPカメラ設定ファイルのインポート/エクスポート

追加したネットワークカメラの情報（IPアドレス、ポート、管理者パスワードなど）をExcelファイルに生成し、ローカルデバイスにエクスポートしてバックアップできます。エクスポートしたファイルは、内容の追加や削除など、コンピューター上で編集可能です。また、Excelファイルを他のデバイスにインポートすることで、設定をコピーできます。

開始前に

ビデオレコーダーにUSBフラッシュドライブなどのバックアップデバイスを接続してください。

手順

1. [設定] → [→ カメラ] → [→ カメラ] に移動します。
2. [詳細設定]をクリックします。
3. 「エクスポート/インポート」をクリックし、接続されたバックアップデバイスへ設定ファイルをエクスポート/インポートします。
4. ストレージデバイスとフォルダパスを設定します。
5. 「エクスポート/インポート」をクリックします。

次の手順

インポート処理が完了したら、ビデオレコーダーを再起動する必要があります。

詳細設定

手順

1. 「設定」→「→ カメラ」→「→ カメラ」に移動します。
2. 「詳細」をクリックします。
3. 必要に応じてパラメータを設定します。

H.265自動切り替え設定

このオプションを有効にすると、デバイスはネットワークカメラ（H.265ビデオ形式をサポートするもの）に対して初回アクセス時に自動的にH.265ストリームに切り替わります。

アップグレード

追加したネットワークカメラをアップグレードします。

エクスポート/インポート

追加されたネットワークカメラの情報（IPアドレス、ポート、管理者パスワードなど）をExcelファイルに生成し、ローカルデバイスにエクスポートしてバックアップできます。エクスポートしたファイルは、内容の追加や削除などの編集が可能で、Excelファイルを他のデバイスにインポートすることで設定をコピーできます。

プロトコル

標準プロトコルで設定されていないネットワークカメラを接続する場合、カスタムプロトコルを設定できます。システムは16種類のカスタムプロトコルを提供します。

カメラ起動パスワード設定

ネットワークカメラの起動および追加に使用するデフォルトパスワードを変更します。

一括設定

選択したネットワークカメラのSVC機能を有効化、または時刻を自動同期させることができます。

クイック画像出力設定

この機能をサポートするネットワークカメラがNVRにリンクされた後、この機能を有効にするとカメラの画像出力速度が向上します。

注記

この機能はPoE機能をサポートするNVRでのみ利用可能です。

6.3.2 表示設定

OSD（オンスクリーンディスプレイ）、画像設定、露出設定、デイ/ナイト切り替え設定などを設定します。

手順

1. 設定→ カメラ→ ディスプレイ に移動します。
2. カメラを設定します。
3. 希望のパラメータを設定してください。

OSD設定

カメラのOSD（オンスクリーンディスプレイ）設定（日付/時刻、カメラ名など）を構成します。

画像設定

ライブビューおよび録画効果の明るさ、コントラスト、彩度などの画像パラメータを

カスタマイズします。

露出

カメラの露光時間を設定します（1/10000～1秒）。露光値が大きいほど画像は明るくなります。

デイ/ナイト切替

周囲の照明条件や時間スケジュールに応じて、カメラを昼間、夜間、自動、またはスケジュール切り替えモードに設定できます。

逆光補正

カメラのワイドダイナミックレンジ（WDR）を設定します（0～100）。周囲の照明と被写体の明るさに大きな差がある場合、WDR値を設定してください。

画像強調

画像のコントラストを最適化して強調します。

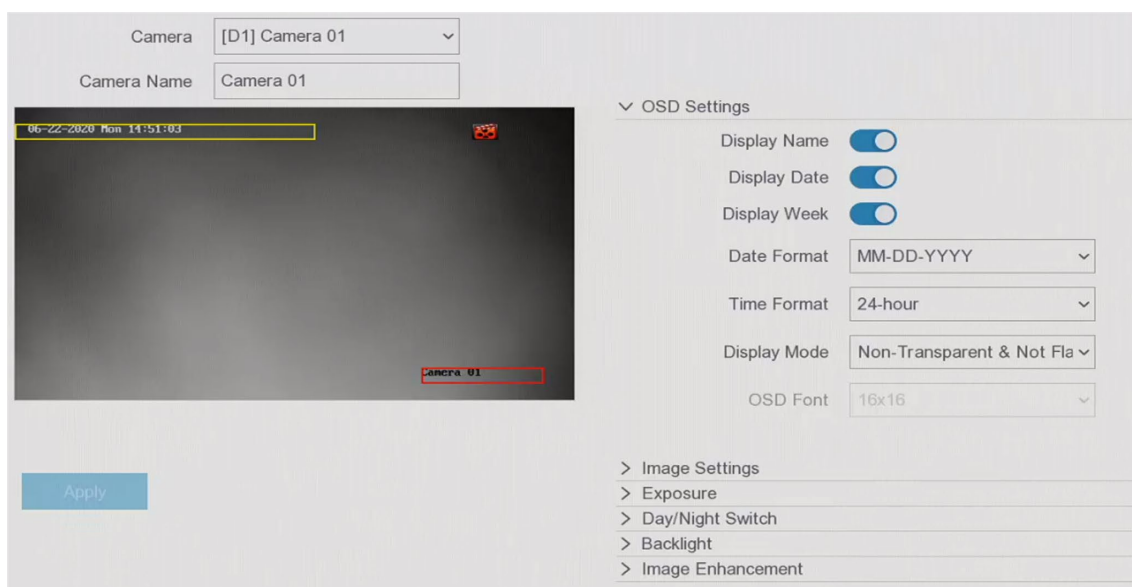


図 6-13 OSD

4. プレビューウィンドウ上のテキストフレームをドラッグしてOSDの位置を調整します。
5. [適用]をクリックします。

6.3.3 プライバシーマスク

表示または録画できないプライバシーマスク領域を設定することができます。

手順

1. [設定] → [→] → [カメラ] → [→] → [プライバシーマスク] に移動します。
2. カメラを選択します。
3. 有効化をオンにします。

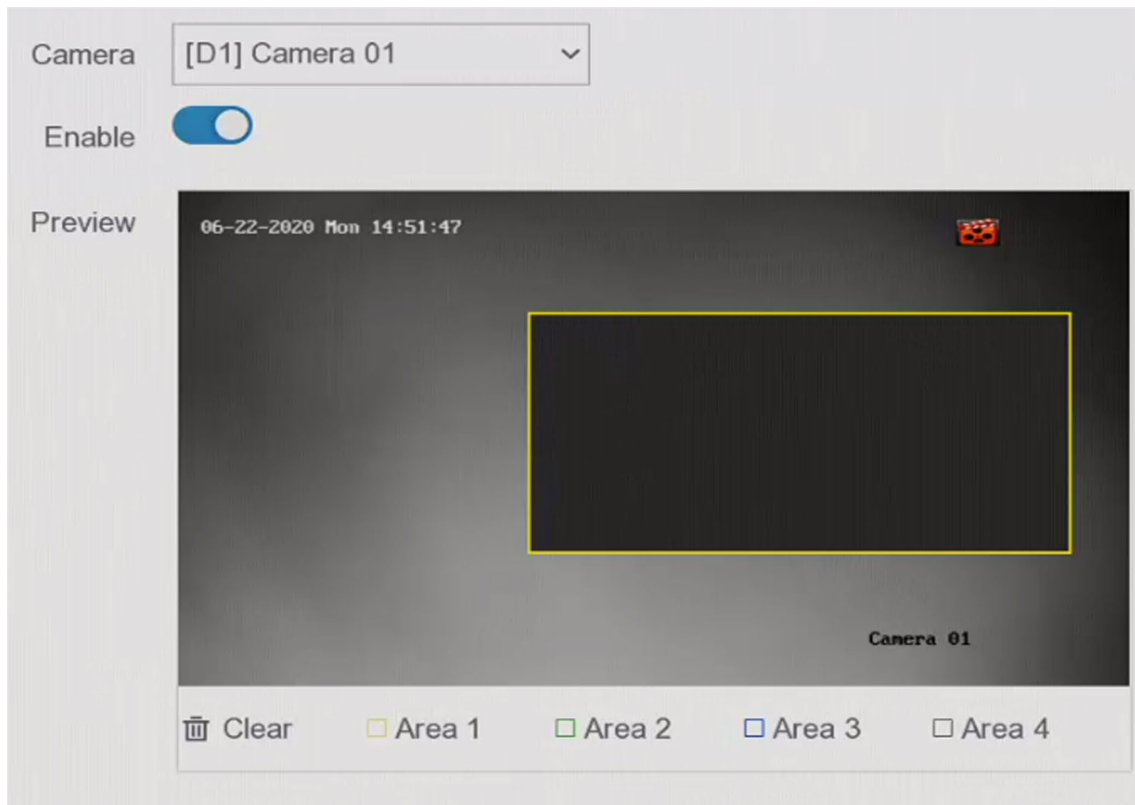


図6-14 プライバシーマスク

4. ウィンドウ上で領域をドラッグして描画します。領域の枠線は異なる色で表示されます。

 注記

最大4つのプライバシーマスク領域を設定できます。各領域のサイズは調整可能です。

5. [適用]をクリックします。

6.4 デバイス管理

6.4.1 スイッチ

スイッチの追加と管理を行います。

スイッチのクイック追加

ビデオレコーダーと同じネットワークセグメント内のスイッチをクイック追加します。スイッチが でアクティベートされていない場合、カメラのアクティベーションパスワード

を使用して追加されます。

手順

1. [設定] → [→ デバイス管理] → [→ スイッチ] に移動します。
2. オンラインデバイス一覧で、追加するスイッチにチェックを入れ、「追加」をクリックします。これにより、カメラ有効化パスワードを使用して、ビデオレコーダーと同じネットワークセグメントにスイッチが追加されます。

スイッチを手動で追加

手順

1. 設定 → デバイスアクセス → スイッチ に移動します。
2. [追加済みデバイス一覧] で [追加] をクリックし、デバイスのパラメータを設定します。

表 6-1 デバイスパラメータ説明

パラメータ	説明
IPアドレス	スイッチのIPアドレス。
管理ポート	デフォルト設定を維持することを推奨します。
ユーザー名 / パスワード	スイッチのユーザー名 / パスワード。
カメラ有効化パスワードを使用	ビデオレコーダーのカメラ起動パスワードを使用してスイッチを追加します。

3. 「追加して続行」をクリックし、すべてのデバイスが追加されるまで操作を繰り返します。
4. 「追加」をクリックします。

6.5 イベント設定

6.5.1 通常イベント

モーション検知

モーション検知は、監視エリア内の移動物体を検知し、警報を発動させる機能です。

手順

1. [設定] → [→] → [カメラ] → [→] → [モーション検知] に移動します。
2. カメラを選択します。
3. 「有効」にチェックを入れます。
4. モーション検知エリアを設定します。
 - 領域を描画またはクリアするには「領域を描画」または「クリア」をクリックします。最初の領域はデフォルトで全画面に設定されます。
 - 「全画面」をクリックすると、モーション検知エリアを全画面に設定します。プレビューウィンドウ上でドラッグしてモーション検知エリアを描画できます。
5. 感度を調整します。感度を調整することで、動きがアラームをどれだけ容易に作動させるかを設定できます。値が高いほど、動き検知がより敏感に作動します。
6. 分析モードを**AI**または**PIR**に設定します。

AI

動作検知イベントはデバイスで分析されます。

PIR

特定のアナログPIRカメラが動作検知イベントを分析します。

7. オプション: **ターゲット検出**を「人間」または「車両」に設定し、人間や車両以外の要因で発生したアラームを排除します。
8. 警戒スケジュールを設定します。詳細は [「警戒スケジュールの設定」](#) を参照してください。
9. 連動アクションを設定します。詳細は [「警報連動アクションの設定」](#) を参照してください。
10. 「適用」をクリックします。

映像改ざん

レンズが覆われた際に警報をトリガーし、警報対応アクションを実行します。

手順

1. [設定] → [→] → [イベント] → [→] → [通常イベント] → [→] → [ビデオ改ざん] に移動します。

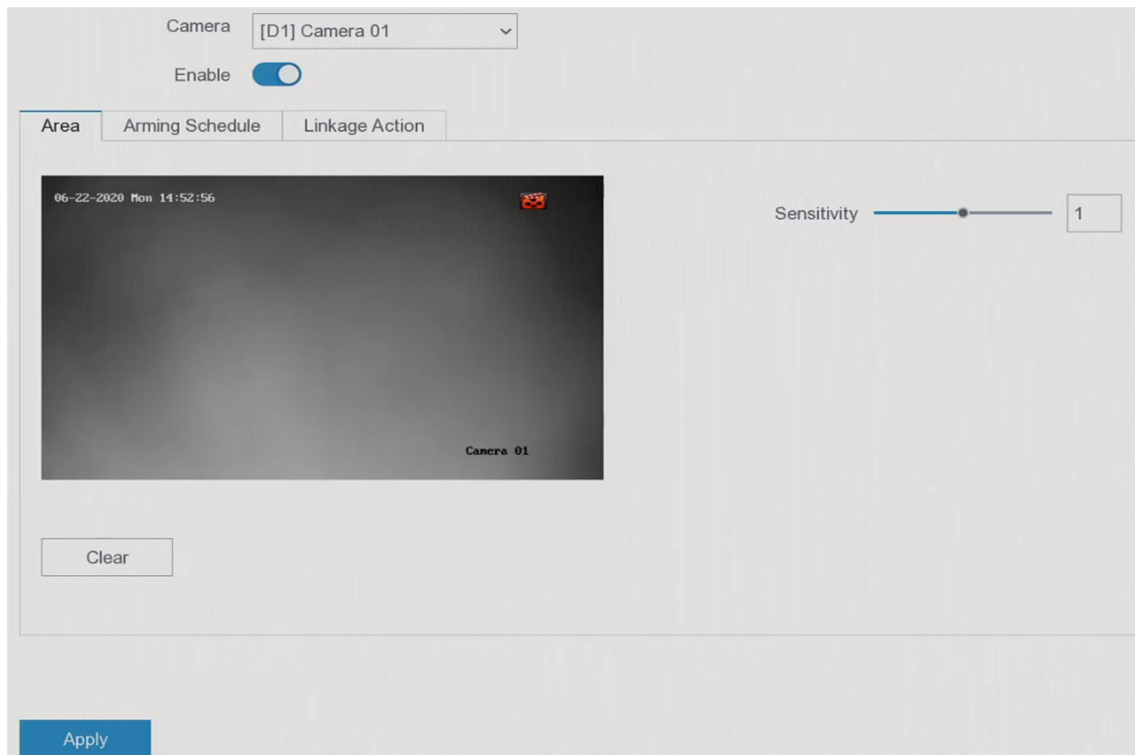


図 6-15 映像改ざん

2. カメラを設定します。
3. 有効化をオンにする。
4. 感度を任意に調整します。値が高いほど、映像改ざんが容易に検知されます。
5. 警戒スケジュールを設定します。詳細は [「警戒スケジュールの設定」](#) を参照してください。
6. 連動アクションを設定します。詳細は [「警報連動アクションの設定」](#) を参照してください。
7. 「適用」をクリックします。

映像喪失

カメラの映像喪失を検知し、警報対応アクションを実行します。

手順

1. [設定] → [→] → [イベント] → [→] → [通常イベント] → [→] → [映像喪失] に移動します。
2. カメラを設定します。
3. 有効化をオンにします。
4. 警戒スケジュールを設定します。詳細は [「警戒スケジュールの設定」](#) を参照してください。
5. 連動動作を設定します。詳細は [「警報連動動作の設定」](#) を参照してください。
6. 「適用」をクリックします。

警報入力

外部センサーアラームの連動動作を設定します。

手順

1. [設定] → [→] → [Event] → [→] → [Normal Event] → [→] → [Alarm Input] に移動します。

Alarm Input No.	Alarm Name	Alarm Type	Enable	Operation
1		N.O	Yes	
2		N.O	No	
3		N.O	No	
4		N.O	No	
5		N.O	No	
6		N.O	No	
7		N.O	No	
8		N.O	No	

図 6-16 アラーム入力

注記

ローカルアラーム入力: ローカルアラーム入力は、ビデオレコーダーの端子台に接続された外部デバイスによってトリガーされます。

2. 対象のアラーム入力の「」をクリックします。

Alarm Input No.

Type

Alarm Name

☐ Settings
 ☐ Nonuse
 ☒ Input

図 6-17 アラーム入力の編集

3. アラーム名をカスタマイズします。
4. アラームタイプを**N.O**（常時開）または**N.C**（常時閉）に設定します。
5. 機能を有効にするため、設定を「入力」に設定します。

注記

設定を「非使用」に設定すると、警報入力は無効になります。設定を「ワンキー解除」に設定すると、警報入力の選択された連動方法が無効になります。

6. 警戒スケジュールを設定します。詳細は [「警戒スケジュールの設定」](#) を参照してください。
7. 連動動作を設定します。詳細は [「警報連動動作の設定」](#) を参照してください。
8. [適用] をクリックします。

警報出力

警報が作動した際に警報出力をトリガーします。

手順

1. 設定→ イベント→ 通常イベント→ アラーム出力。

Alarm Output No.	Alarm Name	Dwell Time	Operation
1	Alarm 1	5s	
2	Alarm 2	5s	

図 6-18 アラーム出力

2. 対象のアラーム出力の「」をクリックします。
3. アラーム名をカスタマイズします。
4. 待機時間を選択します。

図 6-19 アラーム出力の編集

5. 機能を有効にするには、設定を入力として設定します。
6. 警戒スケジュールを設定します。詳細は [「警戒スケジュールの設定」](#) を参照してください。
7. 「適用」をクリックします。

点滅ライト警報出力

光と音声のアラームカメラが接続されている場合、点滅時間、点滅頻度、および点滅ライトアラームの武装スケジュールを設定できます。

開始前に

光と音声アラームカメラが接続されていること。

手順

1. 設定→ イベント→ 通常イベント→ 点滅ライト警報出力 に移動します。
2. 任意の行の「」をクリックします。
3. 点滅時間と点滅頻度を設定します。
4. 警戒スケジュールを設定します。詳細は [「警戒スケジュールの設定」](#) を参照してください。
5. [保存]をクリックします。

音声警報出力

光と音声アラームカメラが接続されている場合、音声アラームのパラメータと武装スケジュールを設定できます。

開始前に

光と音声アラームカメラが接続されていること。

手順

1. 設定→ イベント→ 通常イベント→ 点滅ライト アラーム出力 に移動します。
2. 任意の行の「」をクリックします。
3. オーディオタイプを「アラーム音」「プロンプト音」「カスタムオーディオ」から選択します。

注記

アラーム音を選択した場合、アラーム音の種類も選択する必要があります。カスタムオーディオを選択した場合、オーディオファイルをアップロードし、オーディオ名を入力し、カスタムオーディオのドロップダウンボックスでアップロードしたオーディオを選択する必要があります。

4. アラーム時刻と音量を設定します。
5. 警戒スケジュールを設定します。詳細は [「警戒スケジュールの設定」](#) を参照してください。
6. [保存]をクリックします。

例外

例外イベントを設定すると、ライブビューウィンドウのイベントヒントを取得し、警報出力や連動動作をトリガーできます。

手順

1. [設定] → [→] → [イベント] → [→] → [通常イベント] → [→] → [例外] に移動します。
2. イベントヒントを設定します。設定したイベントが発生すると、アラームセンターでヒントを受け取ります。
 - 1) イベントヒントを有効化。

2) ヒント対象イベントを選択。以下から選択:

- イベントヒント設定の「」をクリックしてイベントを選択します。
- ローカルメニュー右上の「」をクリックし、アラームセンターでイベントを選択。

3. 例外タイプを選択し、連動アクションを設定します。

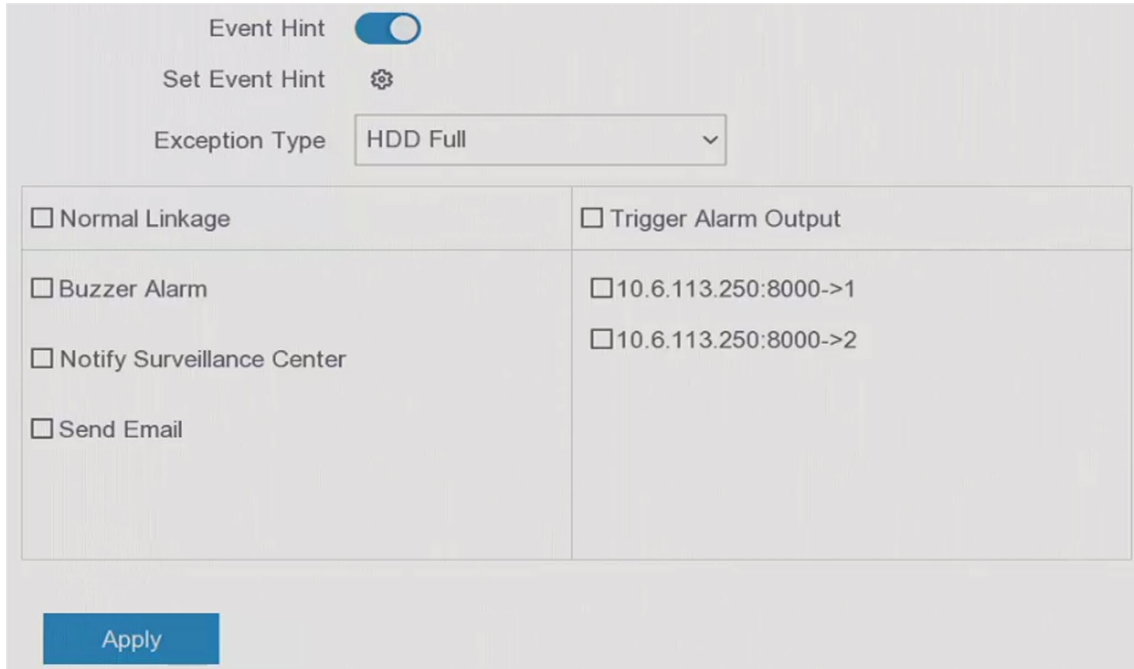


図6-20 例外

4. 警戒スケジュールを設定します。詳細は [「警戒スケジュールの設定」](#) を参照してください。
5. 「適用」をクリックします。

6.5.2 境界保護

境界保護には、境界線越え検知、侵入検知、区域進入検知、区域退出検知が含まれます。

注記

境界保護は、特定のデバイスモデルまたはカメラモデルでのみ利用可能です。

ライン横断検知

ライン越え検知は、設定された仮想ラインを越える人物、車両、物体を検知します。検知

方向は双方向、左から右、または右から左に設定可能です。

手順

1. 設定→ イベント→ 境界保護→ ラインクロッシング に移動します。
2. カメラを設定します。
3. VCAモードを選択します。

NVRによる

イベントはNVRによって分析されます。本デバイスは人物と車両を含む動画を分析可能です。選択したタイプ（人物または車両）のターゲットのみが警報をトリガーするため、他の物体による誤警報を低減できます。

カメラによる

イベントはカメラによって分析されます。

4. 有効化をオンにします。
5. 検知ルールと検知エリアを設定します。
 - 1) 警戒エリアを設定します。
 - 2) 方向を A<->B、A->B、または A<-B に設定します。

A<->B

B側の矢印のみが表示されます。設定された線を両方向から横切る物体を検知し、警報を発することができます。

A->B

A側からB側へ設定ラインを越える物体のみ検出可能。

B->A

設定されたラインをB側からA側へ横切る物体のみ検出可能。

- 3) [最大サイズ]をクリックし、プレビューウィンドウ内で四角形を描画して最大描画領域サイズを設定します。
- 4) 「最小サイズ」をクリックし、プレビューウィンドウに四角形を描画して最小描画領域サイズを設定します。
- 5) 「描画領域」をクリックし、検出領域の4つの頂点を指定してプレビューウィンドウ内に四角形を描画します。
6. 感度を調整します。感度を調整することで、動きがアラームをトリガーする容易さを校正できます。値が高いほど、動き検出がより容易にトリガーされます。
7. オプション：検知対象を「人」または「車両」に設定し、人または車両以外でトリガーされたアラームを除外します。



この機能は特定のモデルでのみ利用可能です。

8. 警戒スケジュールを設定します。詳細は 「警戒スケジュールの設定」 を参照してください。

9. 連動動作を設定します。詳細は [「警報連動動作の設定」](#) を参照してください。
10. **[適用]** をクリックします。

侵入検知

侵入検知機能は、事前に定義された仮想領域に侵入し、滞留する人物、車両、または物体を検知します。

手順

1. **[設定]** → **[→]** → **[イベント]** → **[→]** → **[境界保護]** → **[→]** → **[侵入検知]** に移動します。
2. 設定する **カメラ** を選択します。
3. **[有効化]** をオンにします。
4. 検知ルールと検知エリアを設定します。
 - 1) 「**警戒エリア**」を選択します。
 - 2) **時間閾値**と**感度**を調整します。

感度

検知アラームをトリガーできる対象物のサイズ。値が高いほど検知アラームが容易に作動します。範囲は**[1-100]**です。

時間閾値

範囲 **[1秒～10秒]**。対象物が領域内に滞留する時間の閾値です。定義された検知エリア内での対象物の滞留時間が設定時間を超えると、警報が作動します。

- 3) オプション: **ターゲット検出対象**を「**人**」または「**車両**」に設定し、人体や車両以外の要因による警報を排除します。



この機能は特定モデルでのみ利用可能です。

- 4) 「**領域描画**」をクリックし、検出領域の四つの頂点を指定してプレビューウィンドウ内に四角形を描画します。
5. 警戒スケジュールを設定します。詳細は [「警戒スケジュールの設定」](#) を参照してください。
6. 連動アクションを設定します。詳細は [「警報連動アクションの設定」](#) を参照してください。
7. 「**適用**」をクリックします。

区域進入検知

領域侵入検知機能は、外部から事前に定義された仮想領域に侵入する人物、車両、その他

の物体を検知し、警報が作動した際に特定のアクションを実行できます。

手順

1. 設定→ イベント→ スマートイベント→ エリア入口。
2. カメラを設定します。
3. **VCAモード**を選択。

NVRによる

イベントはNVRによって分析されます。本デバイスは人物と車両を含む動画を分析可能です。選択したタイプ（人物または車両）のターゲットのみがアラームをトリガーするため、他の物体による誤作動を低減できます。

カメラによる

イベントはカメラによって分析されます。

4. **有効化**をオンにします。
5. オプション：VCA検出でキャプチャした画像を保存するには「**VCA画像保存**」にチェックを入れます。
6. 検知ルールと検知エリアを設定します。
 - 1) **警戒エリア**を設定します。最大4つの警戒エリアを選択可能です。
 - 2) **感度**を調整します。**感度**：範囲[0-100]。値が高いほど、検知アラームがより容易に作動します。
 - 3) オプション：**検知対象**を「人」または「車両」に設定し、人体や車両以外による警報を排除します。
 - 4) **最大サイズ**をクリックし、プレビューウィンドウ内で四角形を描画して最大描画エリアサイズを設定します。
 - 5) 「**最小サイズ**」をクリックし、プレビューウィンドウ内で四角形を描画して最小描画エリアサイズを設定します。
 - 6) 「**描画領域**」をクリックし、検出領域の4つの頂点を指定してプレビューウィンドウ内に四角形を描画します。
7. 警戒スケジュールを設定します。詳細は [「警戒スケジュールの設定」](#) を参照してください。
8. 連動アクションを設定します。詳細は [「連動アクションの設定」](#) を参照してください。
9. **[適用]**をクリックします。

領域退出検知

領域退出検知機能は、事前に定義された仮想領域から退出する人物、車両、その他の物体を検知し、警報が作動した際に特定のアクションを実行できます。

手順

1. 設定→ → イベント→ → スマートイベント→ → **領域退出** へ移動します。
2. カメラを設定します。

3. VCAモードを選択します。

NVRによる

イベントはNVRによって分析されます。本デバイスは人物と車両を含む動画を分析可能です。選択した対象タイプ（人物または車両）のみが警報をトリガーするため、他の物体による誤警報を低減できます。

カメラによる分析

イベントはカメラによって分析されます。

4. 有効化をオンにします。

5. オプション：VCA検出でキャプチャした画像を保存するには「**VCA画像保存**」にチェックを入れます。

6. 検知ルールと検知エリアを設定します。

1) **警戒エリア**を設定します。最大4つの警戒エリアを選択可能です。

2) **感度**を調整します。**感度**：範囲[0-100]。値が高いほど、検知アラームがより容易に作動します。

3) オプション：**検知対象**を「人」または「車両」に設定し、人体や車両以外による警報を排除します。

4) **最大サイズ**をクリックし、プレビューウィンドウ内で四角形を描画して最大描画エリアサイズを設定します。

5) 「**最小サイズ**」をクリックし、プレビューウィンドウ内で四角形を描画して最小描画エリアサイズを設定します。

6) 「**描画領域**」をクリックし、検出領域の4つの頂点を指定してプレビューウィンドウ内に四角形を描画します。

7. 警戒スケジュールを設定します。詳細は [「警戒スケジュールの設定」](#) を参照してください。

8. 連動アクションを設定します。詳細は [「連動アクションの設定」](#) を参照してください。

9. **[適用]**をクリックします。

6.5.3 非映像イベント

非映像イベントを設定します。

手順

1. **[設定]** → **[→]** → **[デバイス管理]** → **[→]** → **[非映像イベント]** に移動します。

2. デバイスを選択します。

3. **アラーム内容**を選択します。

4. 警戒スケジュールを設定します。詳細は [「警戒スケジュールの設定」](#) を参照してください。

5. 連動アクションを設定します。詳細は [「アラーム連動アクションの設定」](#) を参照してください。

6. [適用]をクリックします。

6.5.4 その他のイベント

サーマルカメラ検知

本デバイスは、サーマルネットワークカメラのイベント検知モード（火災検知、温度検知など）をサポートしています。選択したイベントの警戒スケジュールと連動動作を設定できます。

開始前に

デバイスにサーマルネットワークカメラを追加し、カメラが有効化されていることを確認してください。

手順

1. [設定] → [→] → [イベント] → [→] → [その他のイベント] に移動します。
2. サーマルカメラ検知イベントを選択します。
3. カメラを設定します。
4. 警戒スケジュールを設定します。詳細は [「警戒スケジュールの設定」](#) を参照してください。
5. 連動アクションを設定します。詳細は [「アラーム連動アクションの設定」](#) を参照してください。
6. [適用]をクリックします。

6.5.5 警備スケジュール設定

手順

1. 「武装スケジュール」をクリックします。
2. 週の1日を選択し、時間帯を設定します。1日あたり最大8つの時間帯を設定できます。



注記

時間帯は重複または重なって設定できません。

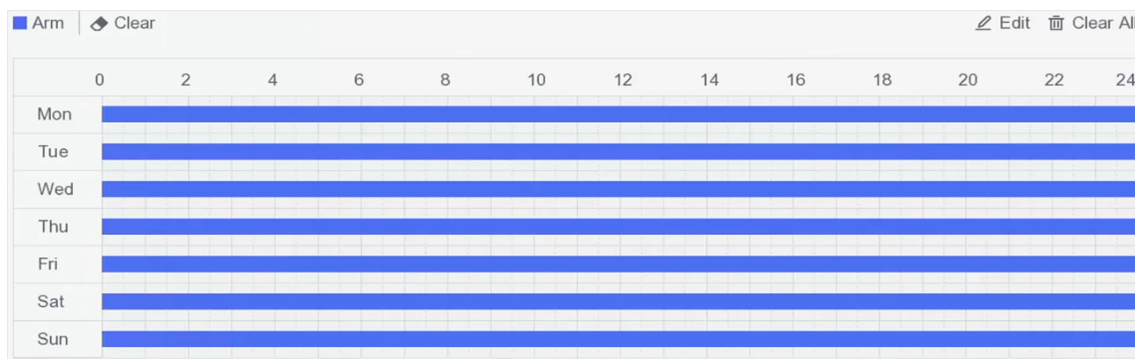


図6-21 警備スケジュール設定

3. **[適用]**をクリックします。

6.5.6 アラーム連動アクションの設定

アラームポップアップウィンドウの設定

アラームがトリガーされると、ローカルモニターはフルスクリーン監視用に設定されたアラーム発生チャンネルの映像を全画面表示します。複数のチャンネルで同時にアラームが発生した場合、自動切り替えの待機時間を設定する必要があります。

手順

1. **[設定]** → **[→]** → **[システム]** → **[→]** → **[ライブビュー]** → **[→]** → **[一般]** に移動します。
2. イベント出力と待機時間を設定します。

アラームポップアップ出力

イベント動画を表示する出力を選択します。

アラームポップアップ遅延

アラームイベント画像を表示する時間を秒単位で設定します。複数のチャンネルで同時にアラームが発生した場合、フルスクリーン画像は10秒間隔（デフォルトの待機時間）で切り替わります。

3. アラーム検出の**連動アクション**をクリックします。
4. アラーム連動アクションとして「**アラームポップアップウィンドウ**」を選択します。
5. トリガーチャンネル設定で、フルスクリーン監視を適用するチャンネルを選択します。

注記

アラームが停止すると自動切り替えは終了し、ライブビュー画面に戻ります。

ブザー警報の設定

音声警告により、ビデオレコーダーはアラームを検知した際にビープ音を鳴らすことができます。

手順

1. **設定**→ **システム**→ **ライブビュー**→ **一般** に移動します。
2. **オーディオ**をオンにし、**音量**を設定します。
3. アラーム検知の**連動アクション**画面に移動します。
4. リンクアクションとして「**ブザー警報**」を選択します。

監視センターへの通知

ビデオレコーダーは、イベント発生時に例外または警報信号をリモート警報ホストに送信できます。警報ホストとは、クライアントソフトウェア（例：iVMS-4200、iVMS-5200）がインストールされたコンピュータを指します。

手順

1. 「**設定**」→「→」→「**ネットワーク**」→「→」→「**一般**」→「→」→「**詳細設定**」へ移動します。
2. **アラームホストIP**と**アラームホストポート**を設定します。
3. アラーム検出の**連動アクション**画面に移動します。
4. 「**監視センターへ通知**」を選択します。

メール連動の設定

ビデオレコーダーは、アラームが検出された際に、ユーザーまたは複数のユーザーにアラーム情報を含むメールを送信できます。

手順

1. 「**設定**」→「→」→「**ネットワーク**」→「→」→「**メール**」に移動します。
2. 設定を構成します。
3. アラーム検出の**連携アクション**画面に移動します。
4. アラーム連動アクションとして「**メール送信**」を選択します。

アラーム出力のトリガー

アラーム出力は、通常イベントおよびスマートイベントによってトリガーされます。

手順

1. アラーム入力またはイベント検出の**連動アクション**インターフェースに移動します。
2. 「**アラーム出力のトリガー**」をクリックします。
3. トリガーするアラーム出力を選択します。

4. 「設定」→「→」→「イベント」→「→」→「通常イベント」→「→」→「アラーム出力」に移動します。
5. リストからアラーム出力項目を選択します。詳細は [アラーム出力](#) をご参照ください。

PTZ連動の設定

ビデオレコーダーは、アラームイベントまたはVCA検出イベント発生時にPTZ動作（プリセット呼び出し/パトロール/パターンなど）をトリガーできます。

手順

1. アラーム入力またはVCA検出の**連動アクション**画面に移動します。
2. 「**PTZ連動**」を選択します。
3. PTZ操作を実行するカメラを選択します。
4. アラームイベント発生時に呼び出すプリセット/パトロール/パターンの番号を選択します。

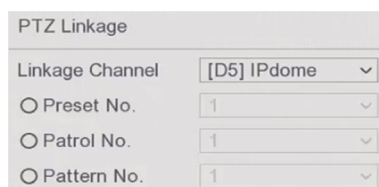


図6-22 PTZ連動

注記

リンケージ動作には、一度に1つのPTZタイプのみを設定できます。

6.6 録画管理

6.6.1 録画スケジュールの設定

ビデオレコーダーは、設定されたスケジュールに従って自動的に録画を開始/停止します。

連続録画の設定

手順

1. 設定→記録→パラメータに移動します。
2. カメラのメインストリーム/サブストリーム連続録画パラメータを設定します。
3. 設定→記録→スケジュールに移動します。

- 録画タイプを「**連続**」に選択します。

イベント録画の設定

通常イベントまたはスマートイベントによってトリガーされる録画を設定できます。

手順

- 設定→ イベント に移動します。
- イベント検出を設定し、イベント発生時に録画をトリガーするカメラを選択します。
- 設定→ 記録→ パラメータ に移動します。
- カメラの連続メインストリーム/サブストリーム録画パラメータを設定します。
- 設定→ 記録→ スケジュール に移動します。
- 録画タイプを「イベント」に選択します。

スケジュール編集

手順

- 設定→ 記録→ スケジュール に移動します。



図6-23 録画スケジュール

連続

連続録画。

イベント

すべてのイベントトリガー警報によってトリガーされる録画。

- カメラ番号でカメラを選択
- 有効化をオンにする。
- 録画スケジュールを設定します。

- 1) 「編集」をクリック。
- 2) 設定する曜日を「平日」から選択。
- 3) 終日録画スケジュールを設定するには、**終日**をチェックし、**スケジュールタイプ**を選択します。
- 4) その他のスケジュールを設定するには、「終日」のチェックを外し、**開始/終了時間**と**スケジュールタイプ**を設定します。

 注記

1日に最大8つの時間帯を設定できます。また、時間帯同士が重複することはできません。

- 5) **[OK]**をクリックして設定を保存し、上位メニューに戻ります。

 注

スケジュールタイプを「**連続**」または「**イベント**」から選択し、目的の時間帯にカーソルをドラッグして色付きのバーを描画することもできます。

5. **詳細設定**をクリックして詳細パラメータを設定します。

音声の録音

音声は動画ファイルに録音されます。

事前録画

予定時刻またはイベントの前に録画を開始する設定時間。例えば、アラームが10:00に録画をトリガーする場合、事前録画時間を5秒に設定すると、カメラは9:59:55に録画を開始します。

事後録画

イベントまたは予定時刻の後に録画する時間を設定します。例えば、アラームによる録画が11:00に終了する場合、ポスト録画時間を5秒に設定すると、11:00:05まで録画されます。

ストリームタイプ

録画対象としてメインストリームとサブストリームを選択可能です。サブストリームを選択すると、同じストレージ容量でより長い時間の録画が可能です。

動画/画像の有効期限

有効期限は、録画ファイルがHDDに保存される期間です。期限が切れるとファイルは削除されます。有効期限を0に設定すると、ファイルは削除されません。ファイルの実際の保存期間は、HDDの容量によって決定されます。

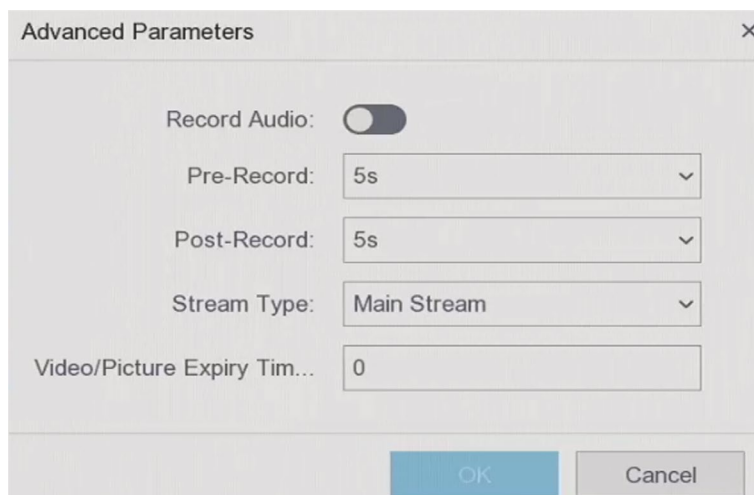


図6-24 詳細設定

6. **[OK]**をクリックして詳細設定を保存します。
7. **[適用]**をクリックします。

6.6.2 録画パラメータの設定

手順

1. カメラのメインストリームおよびサブストリームパラメータを設定するには、**[設定]** → **[→]** → **[→]** → **[Record Parameter]** に移動します。
2. 録画パラメータを設定します。

メインストリーム

メインストリームとは、ハードディスクドライブに記録されるデータに影響を与える主要ストリームであり、映像品質と画像サイズを直接決定します。サブストリームと比較して、メインストリームはより高い解像度とフレームレートで高品質な映像を提供します。

サブストリーム

サブストリームはメインストリームと並行して動作する第二のコーデックです。直接録画の品質を損なうことなく、インターネット送信帯域幅を削減できます。サブストリームは主にスマートフォンアプリがライブ映像を視聴するために使用されます。インターネット速度が制限されているユーザーはこの設定から最大の恩恵を受けられます。

フレームレート

フレームレートとは、1秒間にキャプチャされるフレーム数を指します。動画ストリームに動きがある場合、フレームレートが高いほど画質が維持されるため有利です。

解像度

画像解像度は、デジタル画像が保持できる詳細度の尺度です。解像度が高いほど、詳

細レベルも高くなります。解像度は、ピクセル列数（幅）×ピクセル行数（高さ）で指定できます。例：1024×768。

ビットレート

ビットレート（Kbit/sまたはMbit/s単位）は速度と表現されることが多いですが、実際には時間単位あたりのビット数を定義するものであり、距離単位あたりの時間ではありません。

H.264+有効化 / H.265+有効化

H.264+/H.265+モードは、低ビットレートで高画質を保証するのに役立ちます。これにより、帯域幅とHDDストレージ容量の必要性を効果的に削減できます。

低ビットレートモードを有効にする

デバイスの帯域幅やメモリを節約するため、ネットワーク状況に応じてカメラのメインストリーム動画ビットレートを自動調整します。

注記

低ビットレートモードは特定のカメラモデルでのみ利用可能です。カメラがこの機能をサポートしている場合、デフォルトで有効になります。

3. [適用]をクリックします。

6.6.3 ストレージデバイス

HDDの初期化

HDD を初めて使用する場合は、取り付け後に初期化してください。

開始前に

ビデオレコーダーに少なくとも1台のHDDを取り付けてください。

手順

1. [設定] → [→] → [録画] → [→] → [ストレージ] に移動します。
2. HDDを選択します。
3. 「初期化」をクリックします。

データベース修復

データベースにエラーが発生したHDDを修復します。専門の技術サポートの支援のもとで操作してください。

セキュア消去

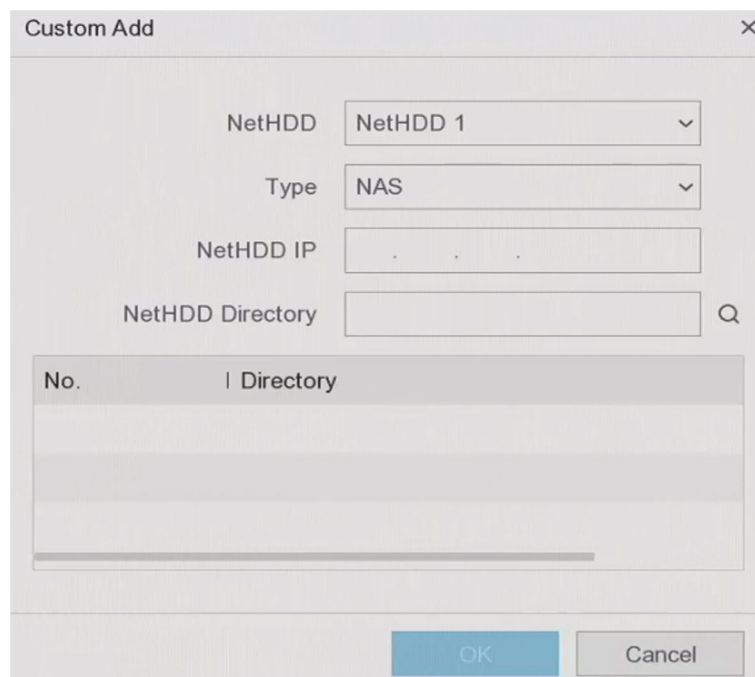
セキュア消去は選択したディスク内の動画を削除します。

ネットワークディスクの追加

割り当て済みのNASまたはIP SANディスクをビデオレコーダーに追加し、ネットワークHDDとして使用できます。

手順

1. [設定] → [→] → [録画] → [→] → [ストレージ] に移動します。
2. 「追加」をクリックします。
3. NetHDDを設定します。
4. タイプを**NAS**または**IP SAN**に設定します。
5. NetHDDのIPアドレスを入力します。
6. 「」をクリックして利用可能なディスクを検索します。



The image shows a 'Custom Add' dialog box with the following fields and controls:

- NetHDD**: A dropdown menu currently showing 'NetHDD 1'.
- Type**: A dropdown menu currently showing 'NAS'.
- NetHDD IP**: A text input field with a placeholder ' . . . '.
- NetHDD Directory**: A text input field with a search icon (magnifying glass) to its right.
- Table**: A table with two columns, 'No.' and 'Directory'. It is currently empty.
- Buttons**: 'OK' and 'Cancel' buttons at the bottom right.

図6-25 NetHDDの追加

7. リストからNASディスクを選択するか、**NetHDD Directory**にディレクトリを手動で入力します。
8. **[OK]**をクリックします。

注

各ネットワークディスクの最大ストレージ容量は8TBまでです。

結果

追加されたネットワークディスクはストレージデバイス一覧に表示されます。

6.6.4 ストレージモードの設定

HDD クォータの設定

各カメラには、ビデオ保存用に割り当てられたクォータを設定できます。

手順



この機能は特定のモデルでのみ利用可能です。

1. 設定→ レコード→ ストレージモード に移動します。
2. モードを「クォータ」に設定します。
3. カメラでクォータを設定するカメラを選択します。
4. 「記録容量」にストレージ容量を入力します。

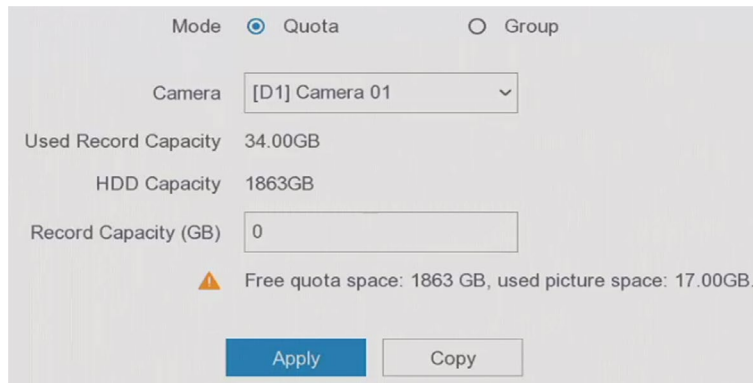


図 6-26 クォータ



クォータ容量を0に設定すると、すべてのカメラが動画と画像用にHDDの総容量を使用します。

5. [適用]をクリックします。
6. 新しい設定を有効にするためにビデオレコーダーを再起動します。

6.6.5 詳細設定

手順

1. [設定] → [→] → [記録] → [→] → [詳細設定] に移動します。
2. 必要に応じてパラメータを設定します。

上書き

- 無効化: HDDが満杯になると、ビデオレコーダーは書き込みを停止します。
- 有効化: ハードドライブが満杯の場合、最も古いファイルを削除して新しいファイルの書き込みを継続します。

HDDスリープを有効化

長時間動作していないHDDはスリープ状態に移行します。

カメラVCAデータの保存

カメラVCAデータを保存し、後で検索できるようにします。

注意

カメラVCAデータの保存を無効にすると、既存のデュアルVCAおよび動体検知情報が削除され、デュアルVCAおよび動体検知情報の解析と保存が停止します。

アラーム保存

HDD の空き容量が不足している場合は、この機能を無効にして容量を節約できますが、デバイスは アラーム情報の保存を停止します。

画像保存

HDDの空き容量が不足している場合、これを無効にすることで容量を節約できますが、デバイスは画像の保存を停止します。

第7章 メンテナンス

7.1 デフォルト設定への復元

手順

1. 右上の「」をクリックします。
2. 復元タイプを選択します。

簡易復元

ネットワーク（IPアドレス、サブネットマスク、ゲートウェイ、MTU、NIC動作モード、デフォルトルート、サーバーポートなど）およびユーザーアカウントパラメータを除くすべてのパラメータを工場出荷時のデフォルト設定に復元します。

工場出荷時設定

すべてのパラメータを工場出荷時のデフォルト設定に復元します。

非アクティブ状態に復元

デバイスを非アクティブ状態に復元し、ユーザーアカウントの復元を除き、すべての設定を変更せずに残します。

3. **[はい]** をクリックします。デバイスは自動的に再起動します。

7.2 検索ログ

ビデオレコーダーの操作、アラーム、例外、および情報はログに保存され、いつでも表示およびエクスポートできます。

手順

1. 右上の「」をクリックします。
2. **[その他]** をクリックします。
3. **[ログ情報]** をクリックします。
4. 検索条件を設定します。
5. **[検索]** をクリックします。

7.3 システムサービス

手順

1. 右上の「」をクリックします。

2. **[その他]** をクリックします。
3. **「システムサービス」** をクリックします。
4. 必要に応じてパラメータを設定します。

RTSP

RTSP認証を設定することで、ライブビューのストリームデータを特に保護できます。

RTSP認証

2種類の認証方式から選択可能です。**ダイジェスト認証**を選択した場合、ダイジェスト認証を持つリクエストのみが、IPアドレス経由でRTSPプロトコルによるビデオストリームにアクセスできます。セキュリティ上の理由から、認証方式として**ダイジェスト**を選択することを推奨します。

ISAPI

ISAPI (Internet Server Application Programming Interface) はHTTPベースのオープンプロトコルであり、システムデバイス間 (例: ネットワークカメラ、NVRなど) の通信を実現します。ビデオレコーダーをサーバーとして使用することで、システムはビデオレコーダーを検出して接続できます。

HTTP

管理者ユーザーアカウントは、GUIまたはWebブラウザからHTTPサービスを無効化できます。HTTPが無効化されると、ISAPIやONVIFを含む関連サービスもすべて終了します。

HTTP認証

HTTPサービスを有効にする必要がある場合、アクセスセキュリティを強化するためにHTTP認証を設定できます。2種類の認証タイプから選択可能です。セキュリティ上の理由から、認証タイプとして**ダイジェスト認証**を選択することを推奨します。

カメラ追加検出

この機能はネットワークカメラの状態を検出します。ネットワークカメラが別のビデオレコーダーによって追加されている場合、**オンラインデバイスリスト**ではカメラの状態が「」と表示されます。

5. **[適用]** をクリックします。

7.4 ブザースイッチ

ブザーは、アラーム連動または例外連動で有効化または無効化できます。

手順

1. 右上の「」をクリックします。
2. **[その他]** をクリックします。
3. **「Buzzer Switch」** に移動します。
4. **[有効化]** をオンまたはオフにします。

7.5 デバイスマaintenance

7.5.1 スケジュール再起動

スケジュールに従ってデバイスが自動的に再起動します。

手順

1. 右上の「」をクリックします。
2. [詳細設定]をクリックします。
3. 「**Device Maintenance**」→「→」→「**Schedule Reboot**」に移動します。
4. [有効にする]をオンにします。
5. 再起動スケジュールを設定します。
6. 「適用」をクリックします。

7.5.2 カメラのアップグレード

追加されたデバイスリスト内のカメラをアップグレードします。

手順

1. [メンテナンス] () をクリックします。→ More→ Deice Maintenance→ **Camera Upgrade**。
2. 「更新を確認」をクリックします。
3. カメラをアップグレードします。

アップグレードするチャンネルを選択し、右側の「アップグレード」をクリックします。
「クイックアップグレード」をクリックすると、更新がある全チャンネルをアップグレードできます。

7.5.3 デバイスステータス

選択したチャンネルをミュートできます。

手順

1. 右上の「」をクリックします。
2. [その他]をクリックします。
3. 「デバイスメンテナンス」→「→ デバイスステータス」に移動します。
4. 「ミュートと通知をオフ」欄で、該当するチャンネルにチェックを入れます。

結果

選択したチャンネルがミュートされます。

7.6 アップグレード

警告

アップグレード中は、シャットダウンや電源を切らないでください。

7.6.1 ローカルアップグレード

開始前に

アップグレード用ファームウェアをバックアップデバイスに保存し、デバイスに接続してください。

手順

1. 右上の「」をクリックします。
2. 「」をクリックします。
3. 「ローカルアップグレード」をクリックします。
4. [デバイス名] でバックアップデバイスを選択します。
5. アップグレード用ファームウェアを選択します。
6. [アップグレード]をクリックします。デバイスは自動的に再起動します。

7.6.2 オンラインアップグレード

最新のオンラインファームウェアでデバイスをアップグレードします。

開始前に

HiLookVisionが有効化され、適切に設定されていることを確認してください。詳細は **HiLookVision**を参照してください。

手順

1. 右上の をクリックします。
2. 「」をクリックします。
3. 「オンラインアップグレード」をクリックします。
4. 最新ファームウェアをダウンロードします。

自動ダウンロード 最新のファームウェアを自動的に確認・ダウンロードします。

テストアップグレード テストアップグレードをクリックすると、手動で最新のファームウェアを確認・ダウンロードできます。

5. 新しいファームウェアバージョンが利用可能な場合、デバイスをアップグレードしてください。デバイスは自動的に再起動します。

第8章 アラーム

イベント発生時には、アラームセンターで詳細を確認できます。

8.1 イベントヒントの設定

アラームセンターで通知するイベントを選択します。

手順

1. 右上の「」をクリックします。
2. 必要に応じて「例外」「基本イベント」「スマートイベント」を設定します。

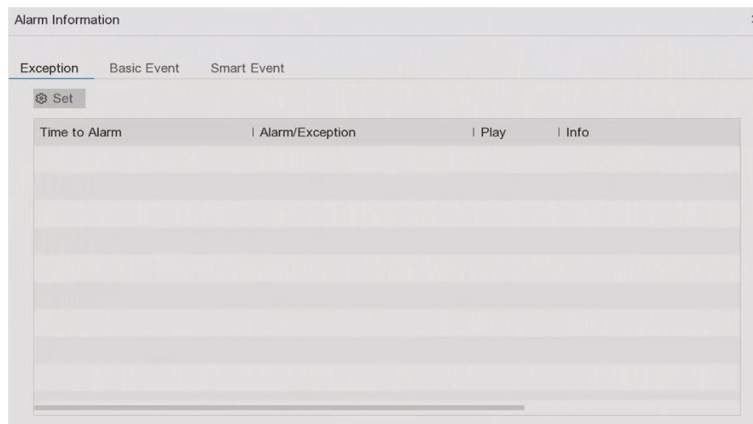


図8-1 アラームセンター

3. 「」をクリックし、通知するイベントを選択します。
4. [OK]をクリックします。
選択したイベントが発生すると、アラーム情報が（ローカルメニューの右上隅）に表示されます。

8.2 アラームセンターでのアラーム表示

手順

1. ローカルメニューの右上にある「」をクリックします。
2. 必要に応じて「例外」「基本イベント」「スマートイベント」をクリックして表示します。

第9章 Web操作

9.1 概要

ビデオレコーダーにはウェブブラウザからアクセスできます。

以下のウェブブラウザのいずれかを使用できます：Internet Explorer 11.0、Apple Safari、Mozilla Firefox、Google Chrome。対応解像度は1024×x x768以上です。

一部のモデルでは、Webコンポーネントプラグインをダウンロードしてインストールする必要があります。そうしないと、一部の機能が利用できなくなります。ダウンロードアドレスは

<http://hikdownload.hs7.com/web/webplugin/windows/WebComponents/standard/WebComponents.exe> です。

9.2 ログイン

インターネット接続環境下での本製品使用にはネットワークセキュリティリスクが伴うことをご承知おきください。ネットワーク攻撃や情報漏洩を防止するため、ご自身の保護対策を強化してください。本製品が正常に動作しない場合は、販売店または最寄りのサービスセンターまでご連絡ください。

手順

1. ウェブブラウザを開き、ビデオレコーダーのIPアドレスを入力して**Enter**キーを押します。

注記

HTTPポートを変更している場合は、アドレスバーに **/http://IP アドレス:HTTP ポート/** と入力してください。例： **http: 192.168.1.64:81**。

2. ログイン画面でユーザー名とパスワードを入力します。
3. 「ログイン」をクリックします。

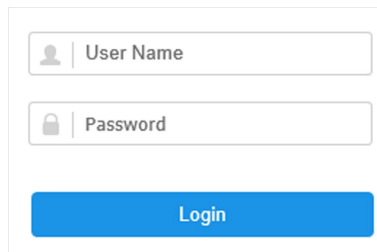


図9-1 ログイン画面

4. インストールプロンプトに従ってプラグインをインストールします。

注記

プラグインのインストールを完了するには、ウェブブラウザを閉じる必要がある場合があります。

9.3 ライブビュー

ログイン後、ライブビューインターフェースが表示されます。

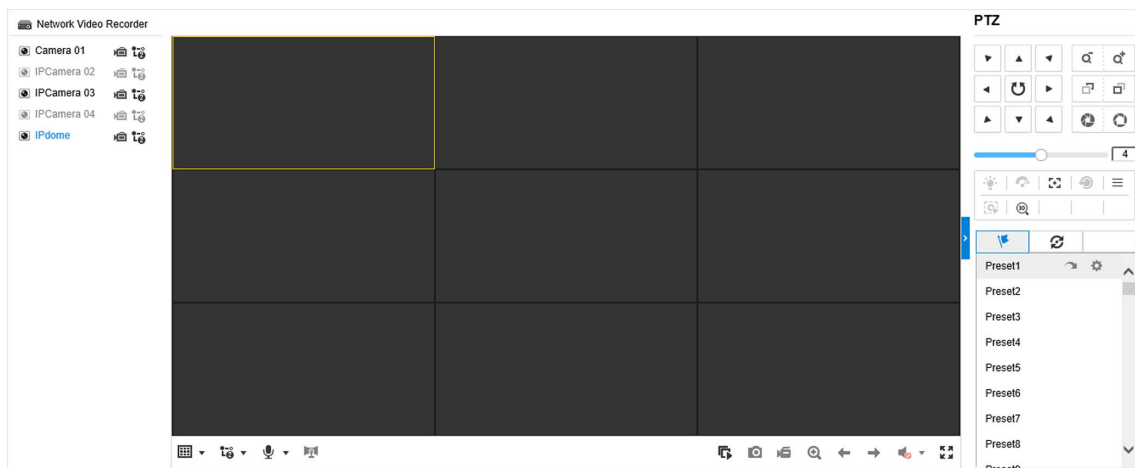


図 9-2 ライブビュー

9.4 再生

再生をクリックすると再生画面に入ります。

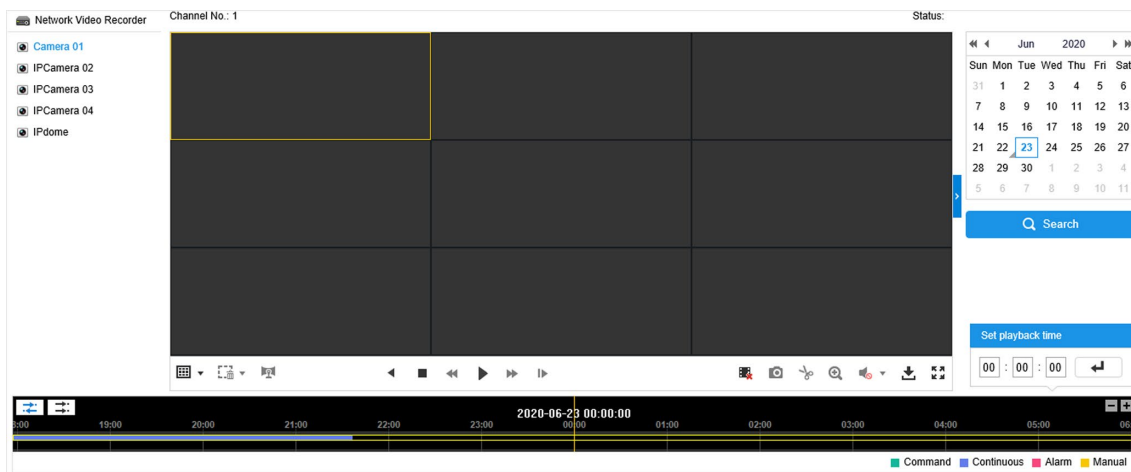


図 9-3 再生

9.5 設定

設定をクリックすると設定画面に入ります。

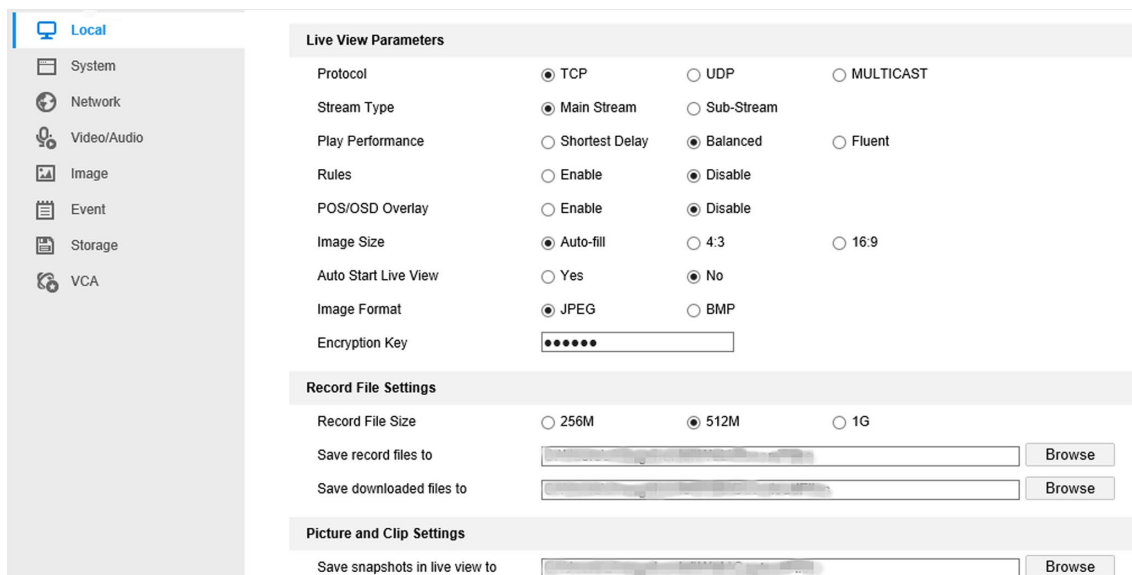


図 9-4 設定

第10章 付録

10.1 用語集

デュアルストリーム

デュアルストリームは、高解像度ビデオをローカルに記録しながら、低解像度のストリームをネットワーク経由で送信するために使用される技術です。2つのストリームはDVRによって生成され、メインストリームの最大解像度は1080P、サブストリームの最大解像度はCIFです。

DVR

デジタルビデオレコーダーの略称。アナログカメラからの映像信号を受け取り、圧縮して内蔵ハードドライブに保存する装置。

HDD

ハードディスクドライブの略称。磁気表面を持つプラッター上にデジタル符号化データを保存する記憶媒体。

DHCP

ダイナミックホスト構成プロトコル（DHCP）は、インターネットプロトコルネットワークで動作するための構成情報を取得するためにデバイス（DHCPクライアント）が使用するネットワークアプリケーションプロトコルである。

HTTP

ハイパーテキスト転送プロトコルの略称。ネットワークを介してサーバーとブラウザ間でハイパーテキストのリクエストや情報を転送するためのプロトコル。

PPPoE

PPPoE（Point-to-Point Protocol over Ethernet）は、イーサネットフレーム内にポイントツーポイントプロトコル（PPP）フレームをカプセル化するネットワークプロトコルである。主に、個々のユーザーがイーサネット経由でADSLトランシーバー（モデム）に接続するADSLサービスや、プレーンなメトロイーサネットネットワークで使用される。

DDNS

ダイナミックDNS（Dynamic DNS）とは、インターネットプロトコルスイートを使用するルーターやコンピュータシステムなどのネットワーク接続デバイスが、DNSに保存されている設定済みホスト名、アドレス、その他の情報をリアルタイム（アドホック）で変更するようドメインネームサーバーに通知する機能を提供する手法、プロトコル、またはネットワークサービスである。

ハイブリッドDVR

ハイブリッドDVRは、DVRとNVRを組み合わせたものです。

NTP

ネットワーク時間プロトコル（**Network Time Protocol**）の略称。ネットワーク上のコンピュータの時計を同期させるために設計されたプロトコル。

NTSC

全米テレビジョンシステム委員会の略称。NTSCは米国や日本などで使用されるアナログテレビ規格である。NTSC信号の各フレームは60Hzで525走査線を含む。

NVR

ネットワークビデオレコーダーの略称。NVRは、IPカメラ、IPドームカメラ、その他のDVRの集中管理および保存に使用される、PCベースまたは組み込みシステムである。

PAL

位相交替ライン（**Phase Alternating Line**）の略称。PALは、世界の多くの地域で放送テレビシステムに使用されている別の映像規格である。PAL信号は50Hzで625走査線を含む。

PTZ

パン・チルト・ズームの略称。PTZカメラはモーター駆動システムであり、カメラの左右パン、上下チルト、ズームイン/ズームアウトを可能にする。

USB

ユニバーサル・シリアル・バスの略称。USBは、デバイスをホストコンピュータに接続するためのプラグアンドプレイ対応シリアルバス規格である。

